

「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」
実施記録集

鬼頭 智美
品川 欣也
荻堂 正博

内藤礼

Rei Naito: come and live - go and live

生まれておいで
生きておいで

重要文化財足形付土製品（部分） 縄文時代2000BC-1000BC 東京国立博物館蔵 撮影：畠山直哉

はじめに

本書は、2024年6月25日（火）～9月23日（月・休）に東京国立博物館（以下、東博）で開催された「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」の博物館による実務の記録である。

この展覧会は、美術家・内藤礼が東博とその収蔵品、建築空間と出会い、それらと向き合って顕した空間作品を公開するもので、館内の3か所を会場として行った。東博にとってあまり例のない現代美術家の個展の開催にあたっては、普段行っている古美術品を中心とした展覧会とはさまざまな点で違った作業や注意点があった。また、媒体社等共催社のない自主企画として行ったため、特別展の際は共催社が行っている財務及び人員の管理などを東博が全て行うこととなった。

今回、将来展覧会事業を行う参考とするため、主に東博が実施した作業面を中心とした記録集を作成した。東博のみならず、ミュージアムが行う展覧会の運営面を中心とした実施記録として、特に普段取り扱う分野から離れて現代美術展を行う際の参考となれば幸いである。

2025年3月

東京国立博物館「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」担当研究員

Foreword

This publication serves as a record of the work that the Tokyo National Museum carried out to hold the exhibition *Rei Naito: come and live - go and live*, which was held from June 25 to September 23, 2024.

The exhibition emerged from artist Rei Naito's encounter with the Tokyo National Museum, its collections, and its architectural spaces, which were expressed with installation artworks in three separate locations within the Museum. As a solo show by a contemporary artist, this exhibition marked a departure from the usual exhibits at the Museum, which typically focus on older artworks. As such, it required attention in many areas that were very different from what the Museum was used to. Moreover, this exhibition was also presented without the support of any co-organizers—such as media companies—so the Museum was solely responsible for managing personnel, financial matters, and so on.

For future reference, compiled here is mainly a record of the work that the Museum undertook in preparation for this exhibition. We hope that this will be helpful not only to the Tokyo National Museum, but also to other museums, especially when they organize contemporary art exhibitions that might not fall within their usual area of expertise.

March 2025

Curators in charge of *Rei Naito: come and live - go and live*

Tokyo National Museum

目次

展覧会概要	6
About the Exhibition	7
スケジュール	9
施工記録	15
展覧会場関係施工	25
保存	31
運営	37
広報	41
実施運営担当一覧	70
関連事業	73

展覧会概要

タイトル：内藤礼 生まれておいで 生きておいで

会 期：2024年6月25日（火）～9月23日（月・休） 79日間

総入場者数：43,780人

会 場：（第1会場）平成館企画展示室（第2会場）本館特別5室（第3会場）本館1階ラウンジ

開館時間：9時30分～17時00分（入館は閉館の30分前まで）

休 館 日：月曜日、7月16日（火）、8月13日（火）、9月17日（火）

観覧料金（総合文化展料金込）

：一般 1,500円（一般前売 1,400円）、大学生 1,000円（大学生前売 800円）

※その他チケットについては38-39ページに詳細を記載。

主 催：東京国立博物館（自主企画事業）

特別協力：エルメス財団

協 力：タカ・イシイギャラリー

関連事業（敬称略）

○記念トークイベント

2024年7月15日（月・祝）14時00分～15時30分 平成館大講堂

登壇者：内藤礼（美術家）、星野太（東京大学 大学院総合文化研究科 准教授）

○月例講演会「『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』との出会い」

2024年8月17日（土）13時30分～15時00分 平成館大講堂

講師：三本松倫代（神奈川県立近代美術館主任学芸員）、品川欣也（東京国立博物館海外展室長）

○＜大学生・大学院生対象ワークショップ＞「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」展 東京国立博物館研究員とのオープンダイアログ

2024年8月19日（月）10時30分～14時30分 本展会場および黒田記念館セミナー室

主催：エルメス財団

共催：東京国立博物館

講師：説田礼子（エルメス財団キュレーター）、鬼頭智美、品川欣也（以上2名東京国立博物館学芸企画部本展担当研究員）

About the Exhibition

Title: Rei Naito: come and live - go and live

Dates: June 25–September 23, 2024 79 days

Total number of attendants: 43,780

Venues: [Venue 1] Thematic Exhibition Room, Heiseikan [Venue 2] Room T5, Japanese Gallery (Honkan) [Venue 3] Lounge on the 1st floor, Japanese Gallery (Honkan)

Hours: 9:30–17:00 (Last admission 30 minutes before closing)

Closed: Mondays (Except July 15, August 12, September 16 and 23), July 16, August 13, September 17

Admissions *including regular exhibition admissions: Adults: ¥1,500 (Advance ticket ¥1,400);

University students: ¥1,000 (Advance ticket ¥800)

High school students, junior high school students and under: Free

Organized by: Tokyo National Museum (self-organized exhibition)

With the Special Support of: Fondation d'entreprise Hermès

With the Assistance of: Taka Ishii Gallery

Related Programs

○ Commemorating Talk Event

Date: July 15, 2024 [14:00–15:30]

Venue: Auditorium, Heiseikan

Speakers: Rei Naito (Artist), Futoshi Hoshino (Associate Professor, Graduate School of Arts and Sciences Dept., The University of Tokyo)

○ Monthly Lecture “The Encounter with *Rei Naito: come and live - go and live*”

Date: August 17, 2024 [13:30–15:00]

Venue: Auditorium, Heiseikan

Speakers: Tomoyo Sanbonmatsu (Curator, The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama), Yoshiya Shinagawa (Curator, Tokyo National Museum)

○ Workshop for Graduate & Undergraduate Students

Rei Naito: come and live - go and live, open dialogue with curators of the Tokyo National Museum

Date: August 19, 2024 [10:30–14:30]

Venues: Exhibition venues and the seminar room of the Kuroda Memorial Hall

Organized by: Fondation d'entreprise Hermès

Co-organized with: Tokyo National Museum

Lecturers: Reiko Setsuda (Curator, Fondation d'entreprise Hermès), Satomi Kito (Curator, Tokyo National Museum), Yoshiya Shinagawa (Curator, Tokyo National Museum)

スケジュール

2021年	10月	エルメス財団説田キュレーター来館、共同企画について意見交換	
2022年	3月	美術家・内藤礼（以下、作家）考古展示室観覧、展覧会について意見交換	
	6月	作家、説田と展覧会の具体案（開催可能時期と会場候補、内容、実施する場合の運営等）について意見交換	
	12月～2023年 1月	東博での展覧会開催決定、会期・会場の概要仮決定	
	12月	東博収蔵品実見調査	
2023年	1月～	本展ワーキンググループ発足 各会場の使用条件等確認、調査	
	1月	特別5室状況確認（窓の開閉実験など）	
	2月	作家会場下見（本館、平成館）	
	6月	作家会場下見、テスト	
	7月	作家会場下見、テスト 広報関係など打ち合わせ 考古分野出品作品撮影	
	8月	作家会場下見、テスト 足形付土製品X線CT撮影 広報関係打ち合わせ	
	9月	作家平成館展示テスト カタログ制作・出版会社決定	
	10月	作家よりタイトル、ビジュアル原案提示	
	11月	写真家・畠山直哉による広報ビジュアル用撮影（本館1階ラウンジ） 作家会場下見、テスト	
	12月	図録打ち合わせ 考古分野出品作品撮影	
2024年	1月	東博ウェブサイト内「館長ブログ」にて開催告知	
	2月	プレスリリース発信、東博ウェブサイト展覧会ページ公開 作家会場下見、テスト 広報用印刷物（チラシ、ポスター）完成	
		展示会場施工	広報ほか
	3月 1日(金)		
	2日(土)		
	3日(日)		
	4日(月) 休館日	作家企画展示室テスト	
	5日(火)		
	6日(水)		
	7日(木)		広報用印刷物配布開始
2024年	3月 8日(金)		
	9日(土)		
	10日(日)		
	11日(月) 休館日	企画展示室ケース内展示台設置	ポスター掲出開始
	12日(火)		

2024年	3月 13日(水)		
	14日(木)		
	15日(金)		
	16日(土)		
	17日(日)		
	18日(月) 休館日		
	19日(火)		
	20日(水)		
	21日(木)		
	22日(金)		
	23日(土)		
	24日(日)		
	25日(月)		
	26日(火)		
	27日(水)		
	28日(木)		
	29日(金)		名刺型カード納品
	30日(土)		
	31日(日)		
4月	1日(月) 休館日	作家展示テスト	博物館ニュース3-5月号配布開始
	2日(火)		
	3日(水)		
	4日(木)		
	5日(金)		
	6日(土)		
	7日(日)		
	8日(月) 休館日	作家展示テスト	
	9日(火)		
	10日(水)		
	11日(木)		
	12日(金)		
	13日(土)		
	14日(日)		

2024年	4月	15日(月) 休館日		企画展示室既存造作撤去 サイン施工	
		16日(火)			
		17日(水)		作家展示テスト	
		18日(木)			
		19日(金)			
		20日(土)	本館特別5室 シャッター修理・壁床撤去・清掃 4月20日～5月26日		
		21日(日)			
		22日(月) 休館日		企画展示室一部施工	
		23日(火)			
		24日(水)			
		25日(木)		作品制作準備 作家展示テスト	
		26日(金)		作家展示テスト	
		27日(土)			
		28日(日)			
		29日(月)			
		30日(火)			
	5月	1日(水)			
		2日(木)			
		3日(金)			
		4日(土)			
		5日(日)			
		6日(月)			
		7日(火) 休館日		企画展示室施工 展示室外	
		8日(水)		企画展示室施工 展示室内	DM発送
		9日(木)			
		10日(金)			
	5月	11日(土)			
		12日(日)			
		13日(月) 休館日			
		14日(火)			
		15日(水)			
		16日(木)		企画展示室考古作品設置	

2024年	5月 17日(金)	本館特別5室 シャッター修理・壁床撤去・清掃 4月20日～5月26日	企画展示室内藤作品制作		
	18日(土)				
	19日(日)				
	20日(月) 休館日			本館特別5室造作施工	
	21日(火)				
	22日(水)			本館特別5室経師施工	
	23日(木)				
	24日(金)				
	25日(土)				
	26日(日)				
	27日(月) 休館日				
	28日(火)				
	29日(水)				
	30日(木)				
	31日(金)				
6月	1日(土)	本館内藤作品制作 (～6月18日)			博物館ニュース6-8月号配布開始
	2日(日)				
	3日(月) 休館日		ラウンジ作品設置確認作業		
	4日(火)				
	5日(水)				
	6日(木)				
	7日(金)				
	8日(土)				
	9日(日)				
	10日(月) 休館日		サイン施工 ラウンジ作品設置作業	Facebook、Instagram広告配信 (～6/23)	
	11日(火)			e-fluxにて告知メール配信	
	12日(水)				
	13日(木)		ケース最終位置決定・免震装置設置 考古作品設置		
	14日(金)				
	15日(土)				広報用動画撮影下見(映像作家・林響太郎)
	16日(日)				
	17日(月) 休館日		バナー取り付け(本館屋外、本館エントランス、屋外灯)		カタログ用会場撮影(畠山)
	18日(火)				
	19日(水)				

20日(木)			広報用動画撮影(林) 監視らへの会場説明 消防点検
21日(金)		館長下見	広報用動画撮影(林)
22日(土)		清掃	
23日(日)		清掃	
24日(月)		関係者内覧会	報道内覧会
25日(火) 開幕			
26日(水)			カタログ用会場撮影(畠山)
27日(木)			
28日(金)			
29日(土)			
30日(日)			
7月	記念トークイベント カタログ編集・制作(～8月) 各種媒体取材対応 Facebook/Instagram広告配信(7/19～28) YouTube広告配信(7/19～8/1)		
8月	職員向け解説会 月例講演会 エルメス財団主催ワークショップ 図録納品・販売開始 各種媒体取材対応		
9月	博物館ニュース9-11月号配布開始 銀座メゾンエルメス フォーラムでの連携企画開幕 週末(土日祝)、東博⇄エルメスのシャトルバス運行		
20日(金)			
21日(土)			
22日(日)			
23日(月) 閉幕			
24日(火) 休館日		作品撤収 造作撤去 サイン撤去	
25日(水)		作品撤収完了	
26日(木)		作品返却完了	

※表中敬称略

施工記録



図1 正門プラザ ガラス面サイン



図2 屋外灯バナー



図3 本館屋外バナー(部分)



図4 本館屋外バナー



図5 平成館企画展示室入口 展覧会タイトル



図6 平成館企画展示室エントランス（展覧会タイトル、サイン看板、もぎり台、注意サイン含） | 撮影：畠山直哉

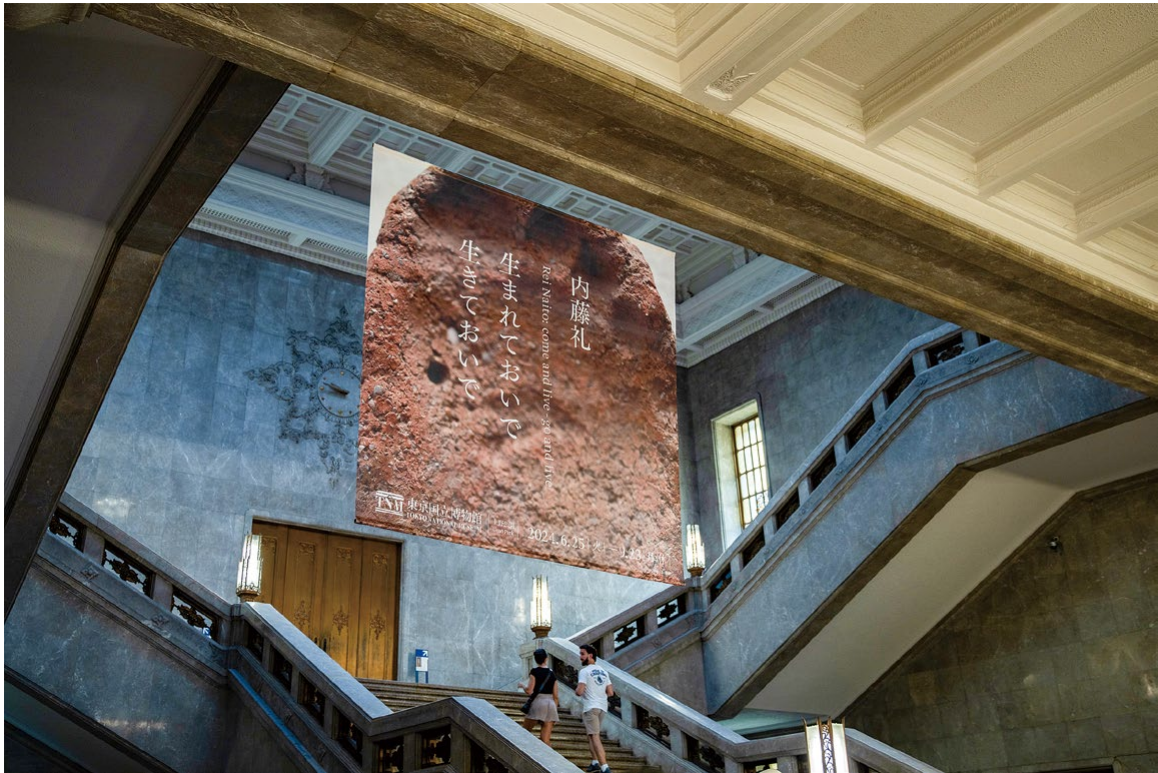


図7 本館エントランスバナー



図8 本館特別5室エントランス（サイン看板、もぎり台、注意サイン含） | 撮影：畠山直哉

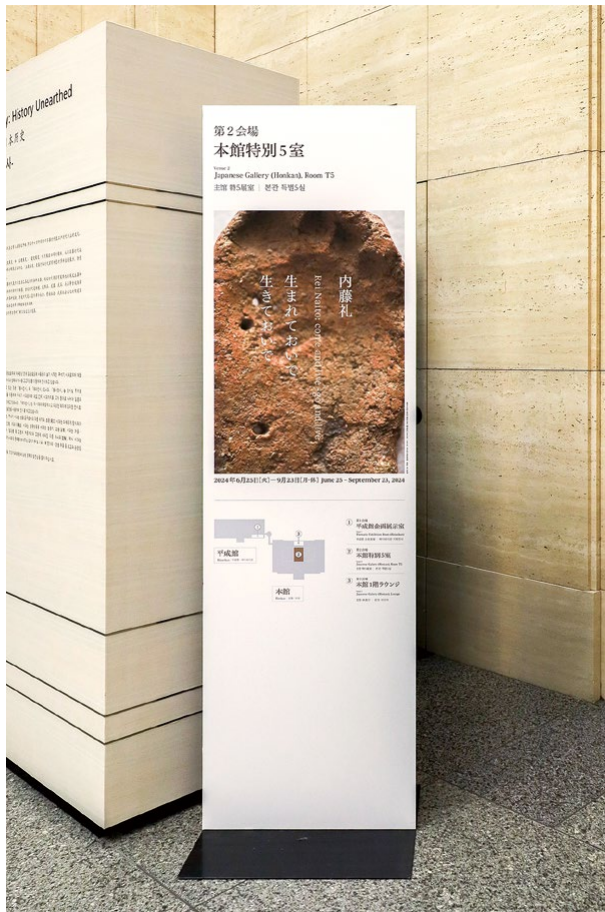


図9 平成館連絡通路前 誘導サイン

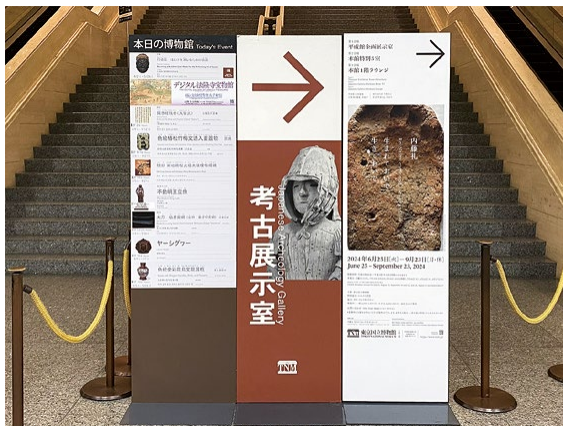


図10 平成館エントランス 誘導サイン

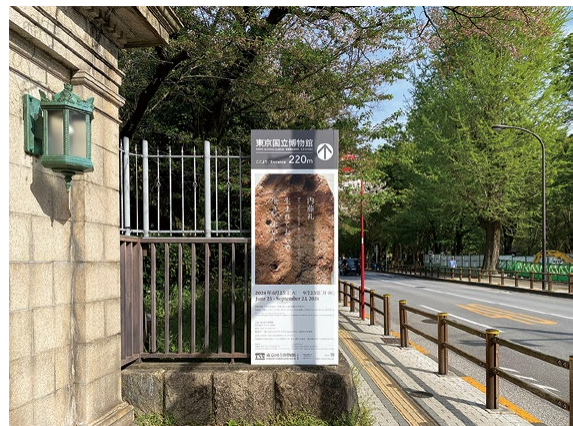


図11 旧動物園前駅前サイン



図20 足形付土製品のレプリカを使用した3D プリンター製マウントの仮合わせ



図21 3Dプリンター製のマウントを使用した足形付土製品の展示の様子

展覧会会場関係施工

デザイン・会場施工について

会場デザインの検討は、2023年9月ごろから2024年4月ごろまで行い、会場造作施工は2024年5月7日、8日、20日、22日の4日間で行った。細かい仕様については開幕まで都度調整を行った。会場の造作物は、作家が図案を作成し、それを元に東博デザイン室で図面を起こして施工業者に発注した。各会場で位置の検討や光の入り方など細かなテストを行いながら、作家の展示プランの実現に向けて調整していった。

本展覧会の会場は、第1会場 平成館企画展示室、第2会場 本館特別5室、第3会場 本館1階ラウンジと離れた3か所にまたがり、来館者が館内を回遊するような動線となった。3つの会場を第1―第2―第3会場の順に移動して、第1会場の「土版」（母型）から始まる作家の作品構成を辿るとともに、会場間の移動の際に通る総合文化展の展示室とも響き合うような構成となった。

普段の東博の特別展展示会場との大きな違いは、仮設造作壁等を極力立てず、展示室を創建当時に近い状態で使用する空間作りである。通常の東博の特別展では、空間に仮設壁を立て、空間を仕切ることで動線や作品のスペースを作っていくことが多いが、本展覧会では本館特別5室や平成館企画展示室に、半ば常設されていた仮設壁（経師紙を貼って会場を演出したり、解説パネルを設置したりする）や仮設床を取り除いていく、引き算の空間作りとなった。仮設壁・床を取り除いた本館特別5室の壁や床は十数年ぶりに露わになった。壁の石や床のタイルは、埃や汚れで変色していたため、作品設置前に業者による清掃を行った。また、本館1階ラウンジの庭園に通じる扉は、作品保護の観点から展示期間中は締切にして運用した。

作品や空間を照らす照明は自然光を多用した設計とし、作家の指示のもと照明調整を行った。平成館企画展示室は、壁付きケース内の天井照明（ミュージアム用蛍光灯）と、入口トンネル状の造作から入る廊下の灯りを使用した。壁付ケース内は、光を均一に拡散させるために、ケース内の照明の明るさは半分程度に絞り、薄暗い空間の中でぼんやりと作品が浮かび上がるような空間となった。本館特別5室は、竣工当時の採光方法である窓からの自然光のみで構成した。常に変化する自然光を取り入れたことで、「生」を感じさせる空間となった。窓ガラスと展示ケースガラス面にはUVカットフィルムを貼り、作品へのダメージ対策を行った。本館ラウンジは、非常用通路としての役割を損なわないよう、既存のシャンデリアライトによる照明はそのまま使用し、人口の照明と窓からの自然採光となった。スポットライトを全く使用しない照明設計は本展覧会の特異な点である。スポットライトを使用しないことで、どこか・どれか一つを際立たせるのではなく、空間全体を感じることでできる展示となった。

本館特別5室に展示した足形付土製品については、本展示用に3Dプリンターを使って東博デザイン室がマウントを制作した。作品が入ったケースを通常より低い位置に設置するため、鑑賞者との接触のリスクが高く、動かないように固定する必要がある。また、作品の底部は湾曲しており、安全かつ自然な角度で展示を行うため、マウントを使用する必要がある。作家からは、マウントがなるべく目立たず、ただ置いてあるように見せたいと要望があった。制作にはCTスキャンした作品の3Dデータを活用した。作品の3Dデータに合わせて3DCGソフト上でマウントを設計し、3Dプリンターで作品のレプリカと、マウントを出力した。出力したレプリカを使い、仮合わせしながらマウントを調整した。完成したマウントは、鑑賞者からほとんど見えない仕上がりとなった。（p 24参照）

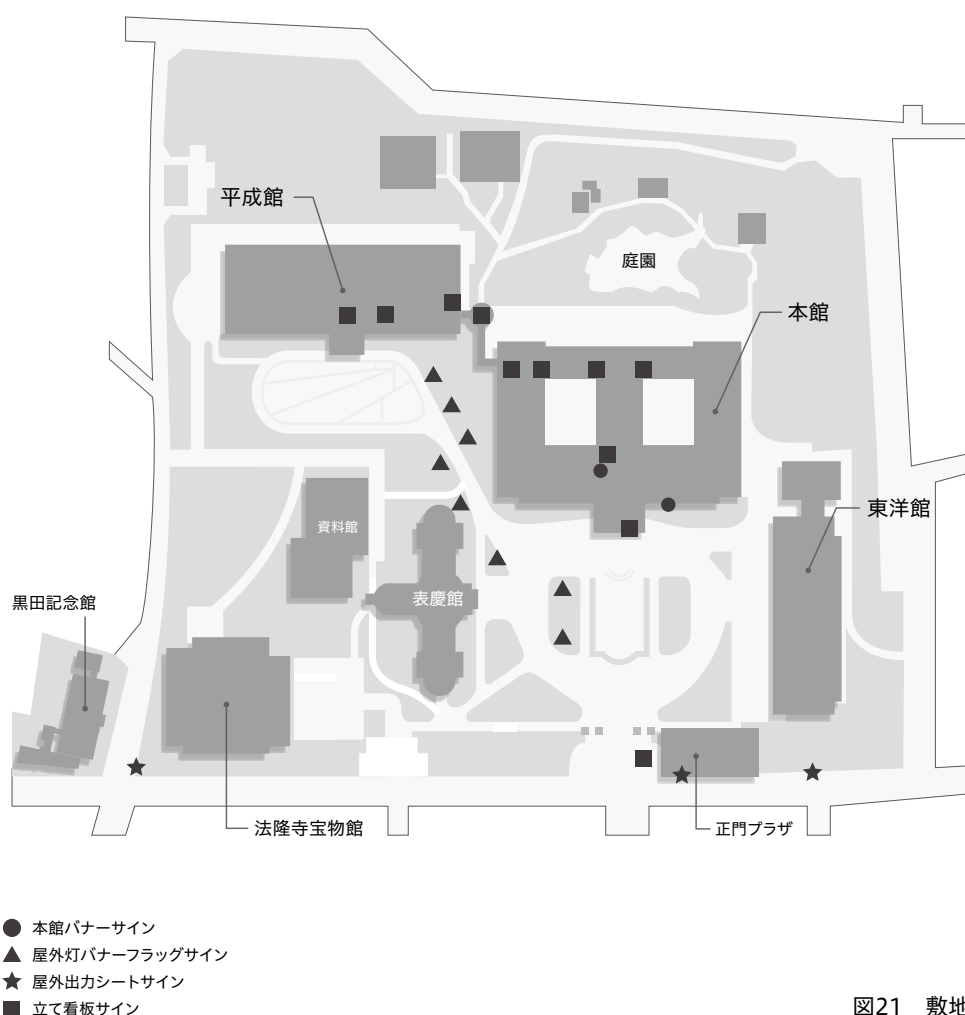
本展は仮設壁をほとんど立てないこともあり、展示ケースのガラス面や建物の壁に直接設置する作品が多かった。

それらの作品を安全に固定する方法の検討にあたり、事前に養生方法や固定材料の試験を行った。ガラス面の養生には粘着糊を使用しない透明の吸着シート（ユボXAD1068）を使用した。展示期間と同期間程度の使用試験を行い、糊残りや耐久性を確認した。また、フィルム等で設置できないような作品固定には、ミュージアムゲル等を使用した。

案内サインについて

館内を回遊する動線ということもあり、館内各所にサインを設置した。（図21参照）

サインは、本館屋外バナー、本館エントランスバナー、本館平成館連絡通路バナー、街灯ポールバナー（8本）、館内サイン看板（9箇所）、正門プラザ公園側ガラス面（3面）、敷地外サイン看板（5箇所）に設置した。それぞれにメインビジュアルのイメージやタイトルロゴを入れた。（pp.17-22参照）



平成館

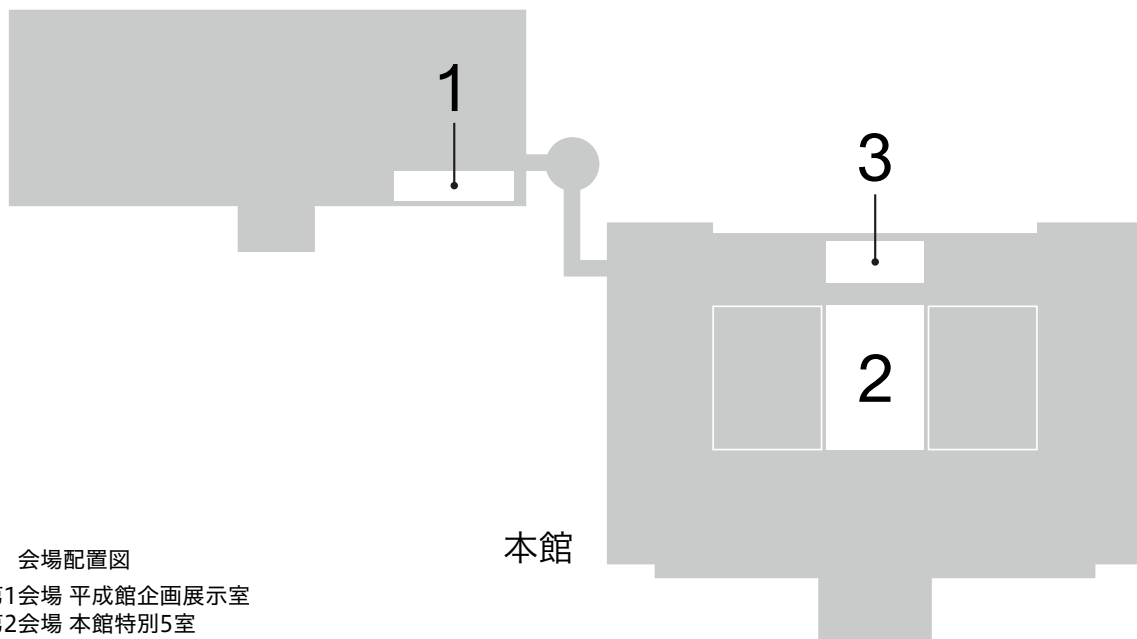


図22 会場配置図

- 1：第1会場 平成館企画展示室
- 2：第2会場 本館特別5室
- 3：第3会場 本館1階ラウンジ

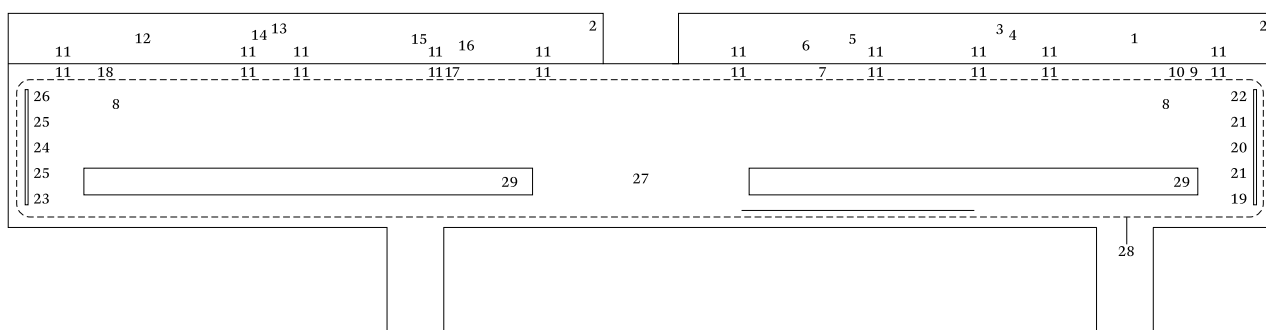


図23 第1会場 平成館企画展示室図面

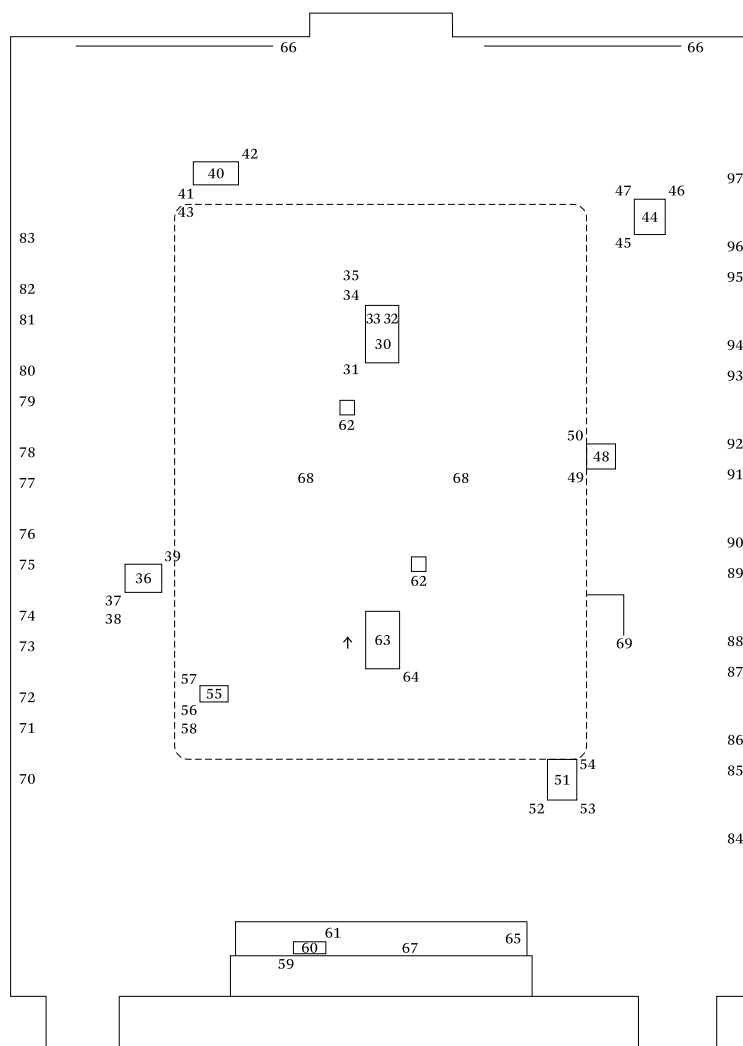


図24 第2会場 本館特別5室図面

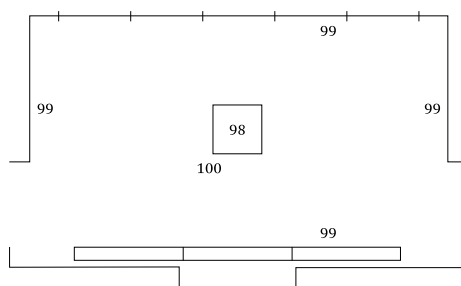


図25 第3会場 本館1階ラウンジ図面

※図23-25内数字は作品No.

保存

出品作品のコンディション

本展の出品作品は、東京国立博物館所蔵の考古遺物と作家内藤礼の作品からなる。作品管理にあたって、考古遺物についてはあらかじめコンディションの確認を行い、内藤作品については展示作品と空間が完成した段階で作家立ち合いのもとコンディションの確認や取り扱いの注意事項について引き継ぎを行った。

出品された考古遺物は土版残欠などの土製品や獣骨残片の動物遺存体からなり、内藤作品は金属・ガラス・石・木などさまざまな素材からなるため、それぞれ素材に負荷をかけないように展示環境に配慮した。なお、本展の一部作品には大森貝塚遺跡公園などから採集した素材をもとに制作したものがある。そのうち小枝を素材とした作品No.9などは、制作に先立ってガスバリア性の袋に入れて密閉し、脱酸素剤を用いて低酸素状態にすることで害虫の殺虫を行った。

展示室の環境

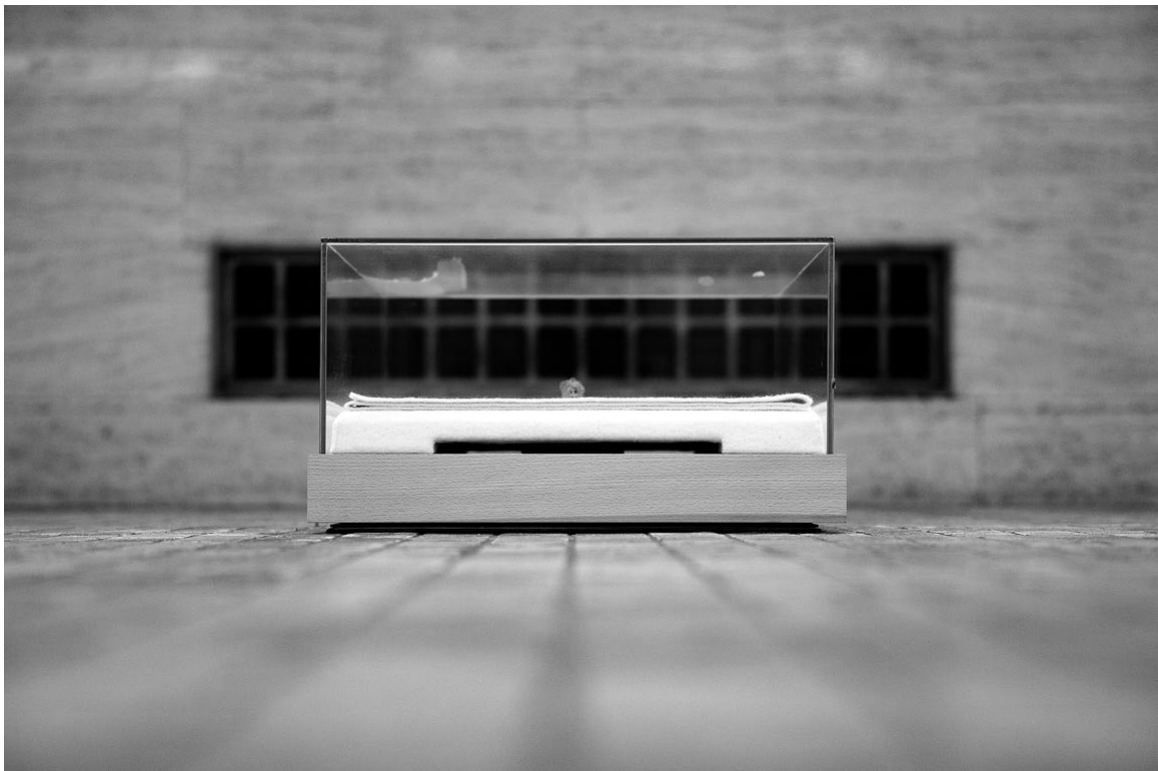
本展は平成館企画展示室（第1会場）、本館特別5室（第2会場）、本館1階ラウンジ（第3会場）の3か所から構成される。当館の展示室の温湿度は平成館が温度を夏期22℃、湿度を通年55%RH、本館が夏期22℃、湿度を通年55%RHに設定し、一日の温湿度の変化が一定の範囲に収まるよう調整している。通常展示室として使用していない本館1階ラウンジは、展示期間中庭園側の扉を閉鎖して温湿度環境の改善を図った。また本展では、展示ケース内に湿度変化を抑えるために調湿保存剤を設置し、また文化財に有害なガスを吸着除去するシートを入れることで、作品への負担を減らし保護することにつとめた。

平成館企画展示室は照明を用いた人工光、本館特別5室は自然採光、本館1階ラウンジでは人工光と自然採光からなる。本館特別5室は通例では照明を用いるが、本展では自然採光のもとで展示を行った。そのため紫外線による劣化を避けるため窓および展示ケースにはUVカットフィルムを貼って対応した。

地震対策のため本館特別5室に設置した覗きケースには免振装置（ミューソレーター）を用いた。極めて薄い免振装置を用いた理由は、作家の構想に合わせて展示物をなるべく地面に近い場所に設置するようケースの高さのかさ増しを避けたためである。また作品の展示のためにテグスやピンを用いて固定し、一部専用のマウント（p.24）を用意して設置した。



脱酸素剤を用いた殺虫と殺菌の様子



展示ケース下に設置した極薄の免震装置

特別5室の工事について

本館の特別5室は、これまで多くの企画展会場となってきたが、原則部屋の東西にある高窓は閉鎖、ロールカーテンを下した状態で使用しており、2009年からは照明用のダクトを設置するとともに床面に絨毯が敷かれ、壁面は展覧会ごとに仮設の造作壁が設置されていた。

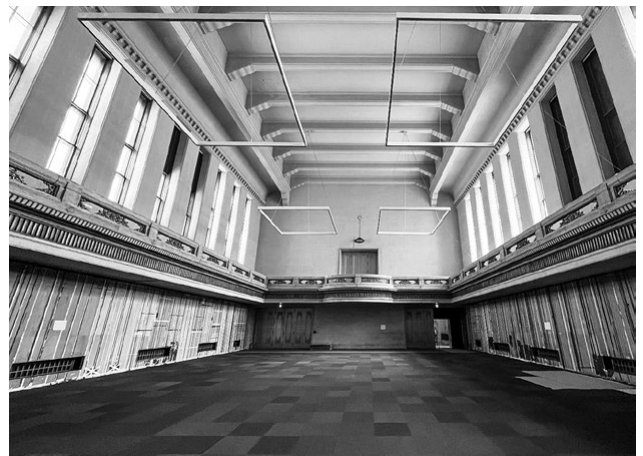
今回の企画のための会場を検討する中で、作家による下見の後、窓に取り付けられた鎧戸（シャッター）の開放が可能か、との照会があった。この鎧戸がいつ閉鎖されたのか正確な年が不明であるが、1950年代の写真に開放されているとみられる展示風景写真があり、その後1970年代の展示風景写真ではすでに閉じられその後開放されたとの記録がみつからないため、少なくとも50年以上は閉じられた状態だったとみられる。近年本館の活用計画を検討する中で施設調査・整備が進んでおり、その一環として特別5室の改修・整備も行われた。

具体的には、シャッターの開閉器（モーター）を3か所交換（シャッターとしては6か所分）し、全ての窓にUVカットフィルムを張った後、室内側の窓および周囲の壁清掃を行った。展覧会に向けて作家による制作開始予定日に間に合い、無事自然光のもとでの作品制作がかなうこととなった。

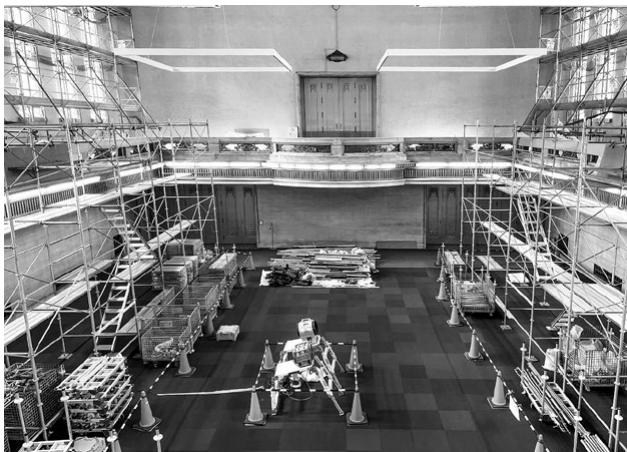
本展以降、この部屋はシャッターを上げた状態で利用する場合もあり、自然の光が作り出す雰囲気が好評である。外部の人の視点により何十年も使ってきた見慣れた場所の新たな価値を見出すこととなった。



本館特別5室彫刻展示（1952年発行パンフレットより）



本館特別5室工事前 故障によりシャッターが上がらない、または上がりきらない箇所がある。床は絨毯張り、仮設壁有



工事中。内側に足場を組み、シャッター修理と清掃を実施



工事完了後作品設置前。すべてのシャッターが上がり、床の絨毯は剥がして清掃、壁面は建築当初の大理石むき出しの壁となった

運営

警備・誘導

本展では、特に第2会場において床に近く低い位置に展示ケースが設置されたが、ケースおよび作品廻りに結界等を設置しなかった。そのため、特に作品保全にはかなり神経を使い、損失・損害を防ぐべく体制を整えた。一方、鑑賞者の妨げにならず展示室で無用な緊張感が生じないように、監視員たちは来場者への適切な対応を心掛けた。

会場が3か所に分かれており、作家が推奨する鑑賞順路があったので、作家のストーリーが正しく伝わるよう、会場誘導および展示室入口で案内した。今回の展覧会への来場者の多くが東博にはじめて訪れる人たちであり、会場間を巡る順路を示すだけでは迷う人が続出した。そのため、各会場入口等で係員の声かけや、館内誘導のボランティアによる案内がなされ、会期中に誘導サインも増やすことになった。

券売について

当初は総合文化展料金での公開を検討したが、展示室内の人数を把握する必要があったことから特別料金を設定した。若年層、特に大学生の来場誘致のため、大学生料金を低めに設定する一方、当館の大学メンバーシップ「キャンパスメンバーズ」の加入誘致も図るため、会員校の学生料金を通常の大学生料金の半額とした。前売券は、4月11日（木）～6月24日（月）の期間、当館正門脇の券売所およびオンラインでの販売（アソビューおよびKlook）を行った。

快適な鑑賞環境維持のため、一つの展示室内に一度に入ることのできる人数を制限する中、土日に大きく混雑し、入場待機列が長くなってしまったため、会期中の8月1日からは日時指定制による券売を開始した。会期中での販売（入場）方法の変更は周知が追いつかず、来館する人に若干の混乱が見られたが、内藤作品を見慣れている人は予約制による来場に慣れており、おおむね理解を得られたと思う。

【観覧料金】

一般 1,500円（一般前売 1,400円）

大学生 1,000円（大学生前売 800円）

（注） 高校生以下、障がい者とその介護者1名は無料。入館の際に学生証、障がい者手帳等を提示。

（注） 本展チケットで、観覧日当日に限り、総合文化展も鑑賞可能。

（注） 東京国立博物館キャンパスメンバーズ会員の学生は、本展を500円（500円割引）で鑑賞可能とした。事前予約は不要。正門チケット売場（窓口）にて、キャンパスメンバーズ会員の学生であることを申し出、学生証を提示。

○日時指定予約チケット

オンライン日時指定予約チケットを観覧日の前日23時59分まで販売。

ただし、前日までに予定数に達しなかった場合は、当日、当館正門チケット売場（窓口）で販売。

以下は事前予約不要とした：

- ・7月31日までにオンラインチケットを購入した人
- ・前売券を購入した人

- ・招待券、特別展観覧券を所持している人
- ・入館無料の人（高校生以下、障がい者とその介護者1名）
- ・賛助会 個人ゴールド会員、プラチナ会員、団体会員
- ・キャンパスメンバーズ会員校の学生

○「東京現代」との連携について

国際アートフェア「東京現代」との連携事業として、事前にチケットをご購入いただき、7月2日・3日の開館時間内に東京現代VIP会員各日上限50名ずつを招待した。

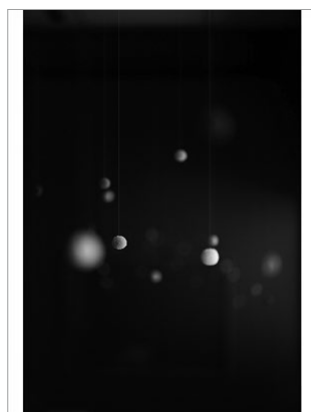
カタログ販売

本展のカタログは、外部の出版社であるHeHeに編集・制作および書籍としての出版を委託し、当館が必要部数を買取するという形をとった。これは、当館が現代美術の美術館ではないため、現代美術に興味のある人が入手しやすいよう販路を拡げる期待からでもある。写真家・畠山直哉による作品写真のほか、作家本人による詩、外部の現代美術専門家による展覧会および作品解説と作家紹介、当館研究員による展覧会の企画意図や考古遺物としての解説文やエッセイなどを掲載し、展覧会自体の記録として充実した内容となっている。

販売は、当館ミュージアムショップ内での対面販売の他、HeHe社サイトおよび当館ミュージアムショップのサイトでオンライン販売も受け付けている。作品が出来上がり、展覧会が完成するのは開幕直前で、カタログ制作の多くの作業がそれ以降となるため、当初は予約販売となった。通常当館の特別展では準備期間にはすでに作品があり、開幕に間に合わせるようカタログを制作するが、会期の途中でカタログが出来上がり販売を開始するのは異例のことであった。第1次納品は2024年8月28日で、会期中におおよそ1か月販売期間を設けることができた。



会期終盤の待機列（第2会場付近）



本展カタログ表紙

特別協力について

本展では、エルメス財団から有償・無償の支援を受けた。この企画自体が、エルメス財団の現代美術ギャラリーである銀座メゾンエルメス フォーラムのキュレーター・説田礼子に美術家・内藤礼をご紹介いただいたことから始まり、同フォーラムで2か月強会期をずらして9月初めに開幕した同タイトルの展覧会と一続きの展覧会である。企画面での協力のほか、施工費の一部等をご支援いただいた。

そのほか、同フォーラムでの会期が始まった後の週末（土日祝）は、2会場を結ぶ無料シャトルバスをご手配いただき、多くの人が両会場を巡る内藤作品のストーリーを体験することができた。さらに、会期中に人文学、主に芸術や歴史、文学などを学ぶ学生を対象にしたワークショップをご主催いただき、これからこの分野の研究、職務に進んでいこうとする若年層の方々が展覧会の作品や当館の考古分野の収蔵品ひいては博物館との対話を試みた（詳細後述）。

○無料シャトルバス運行について

■実施期間：2024年9月7日（土）、8日（日）、14日（土）、15日（日）、16日（月・祝）、21日（土）、22日（日）、23日（月・休）

■料 金：無料（定員20名、先着順）

■スケジュール

東京国立博物館（上野） 発

出発時間：11:00, 12:00, 13:00, 14:00, 15:00, 16:00, 17:00

*バス乗場：正門発着（9/7のみ発着場所が異なるため平成館内「ラウンジ」集合）

※展覧会チケット（各種会員証などを含む）を提示下乗車。ただし、中学生以下・障がい者とその介護者一名はチケットの提示は不要です。

メゾンエルメス フォーラム（銀座） 発

出発時間：12:30, 13:30, 14:30, 15:30

*バス乗場：外堀通り 数寄屋橋交差点近く



エルメス財団によるシャトルバス

広報

広報用素材の撮影

本展の広報用ビジュアルには、当館の所蔵する重要文化財「足形付土製品」の写真が使われている。通常展覧会広報で使用する画像は、原品の原寸大を超えないことを大原則としている。これは、来場者に「実物と大きく異なるものを提示して宣伝することにより、展示品についての誤解を与えない」ためだ。しかし、今回はこの原則に従っていない。それは作品を単に縄文時代の考古遺物として提示するのではなく、現代美術家の作品の中で作家の解釈により見せるという、いつもとは違う試みによる。指定文化財ではあるものの、これまで大きく取り上げられたことはなく、平常展示の中で縄文時代の遺物の一つとして見せられていたものを、内藤が見出し、広報用ビジュアルに、しかも土の粒の質感もわかるほど大きくトリミングしたクローズアップの画像を使用することを発案し、このデザインとなった。現代美術家の展覧会で本人の作品以外、しかも全く違った分野の文化財写真のみでメインビジュアルを構成するのは極めて珍しいのではないだろうか。

館内に既存する所蔵品の写真は、歴史的な資料としてニュートラルな照明のもとで撮影されたもので、実際今回使用した「足形付土製品」の写真も、カタログ用としてデジタルで新たに撮影も行った。しかし、広報用には、内藤作品を長年撮り続けている写真家・畠山直哉に依頼し、広報用制作物に使用するために撮影したものを使用した。この写真は、第3会場の本館1階ラウンジで、太陽の光のもとで撮影した。普段既存の作品画像を使用してビジュアルデザインを作成するのとは逆に、どのようなデザインになるかを想定した上で撮影した写真を使用するのは我々にとって経験のないことだった。また、人工照明で照らすのではなく、自然の光のみで、時間あるいは天候によって変わる光の射す方向、角度、強弱が時々刻々と移ろう中、土製品のさまざまな姿が捉えられた。2-3歳で亡くなった子どもの足に土を押し付けて形をとった微妙な力加減も伝わってくる写真となり、「生まれておいで 生きておいで」というメッセージを強く感じさせるビジュアルができた。また、自然光のもとに出土品を見る経験は、実際に発掘した考古学者にしかできないものだが、ポスターなどを目にした人は、畠山の写真を通してそれと近い感覚でこの土製品に対することができたのではないかと思う。

撮 影 日：2023年11月13日（月）

撮影場所：東京国立博物館本館1階ラウンジ

撮 影 者：畠山直哉

作品準備：品川欣也、菊池望

広報協力について

今回の展覧会には、内藤作品を常設するベネッセアートサイト直島を運営する福武財団および内藤の出身地である広島県を本社とする㈱アンデルセンに広報協力をいただいた。

具体的には、福武財団公式SNSでの相互リポスト等による情報発信を実施し、アンデルセン上野店で広報用に作成したチラシおよび名刺型カードを配布していただいた。なお、この名刺型カードは、上野界限はじめ美術に関心の高い方が足を運びそうな店舗にも送付した。



内藤礼
Rei Naito: come and live - go and live
生まれておいで
生きておいで

2024年6月25日[火]—9月23日[月・休] June 25 – September 23, 2024

開館時間：午前9時30分—午後5時 ※入館は閉館の30分前まで | 休館日：月曜日（ただし、7月15日、8月12日、9月16日・23日は開館）、7月16日[火]、8月13日[火]、9月17日[火]
Hours: 9:30–17:00 (Last entry is 16:30.) | Closed: Mondays (except for July 15, August 12, September 16 and 23), July 16, August 13 and September 17

主催：東京国立博物館 | 特別協力：エルメス財団 | 協力：タカ・イシイギャラリー | 観覧料：一般1,500(1,400)円 / 大学生1,000(800)円 / 高校生以下無料
お問い合わせ：050-5541-8600 (ハローダイヤル) • 混雑時は入場をお待ちいただく可能性があります。• 荒天の場合、一部会場が閉場となる場合があります。

<https://www.tnm.jp/>

TNM 東京国立博物館 上野公園
TOKYO NATIONAL MUSEUM

平成館企画展示室
本館特等5室
本館1階タラシジ

連携企画
内藤礼 生まれておいで 生きておいで
2024年9月7日—2025年1月13日 新展 メゾンエルメス フォーラム

Linked Exhibition
Rei Naito: come and live - go and live
September 7, 2024–January 13, 2025; Le Forum, Gintza Maison Hermès

Special fee is required.

図26 ポスター



図27 チラシ（表・裏）



図28 名刺型カード（表・裏）



図29 招待状（表・裏）



P1表紙（日本語・英語）



東京国立博物館
TOKYO NATIONAL MUSEUM

PRESS RELEASE

内藤礼
Rei Naito comes and live, go and live

生まれておいで
生きておいで

会場： 2024年6月25日（水）～9月23日（月・火）

期日： 東京国立博物館 平成館6階展示室、本館特別展示室、本館17階ラウンジ

主催： 東京国立博物館

特設係員： エルメス総店

協力： タカ・イイノギャラリー

展覧時間： 午前9時 30分～午後5時 入館最終時刻の30分前まで

休館日： 月曜（休）7月5日、8月12日、9月16日～23日（お盆期間）、7月16日（水）、8月13日（水）、9月17日（木）

観覧料：＊税込
大人 1,500円（1,400円）、大学等 1,000円（800円）
※東京メトロ有楽町線と丸の内線が、9月1（水）の休館日。休館日は9月1日（水）～9月2日（木）まで、有楽町線と丸の内線が、9月2日（木）の休館日。休館日は9月2日（木）～9月3日（金）まで、丸の内線が、9月3日（金）の休館日。休館日は9月3日（金）～9月4日（土）まで、丸の内線が、9月4日（土）の休観日。休館日は9月4日（土）～9月5日（日）まで、丸の内線が、9月5日（日）の休館日。休館日は9月5日（日）～9月6日（月）まで、丸の内線が、9月6日（月）の休館日。休館日は9月6日（月）～9月7日（火）まで、丸の内線が、9月7日（火）の休館日。休館日は9月7日（火）～9月8日（水）まで、丸の内線が、9月8日（水）の休館日。休館日は9月8日（水）～9月9日（木）まで、丸の内線が、9月9日（木）の休館日。休館日は9月9日（木）～9月10日（金）まで、丸の内線が、9月10日（金）の休館日。休館日は9月10日（金）～9月11日（土）まで、丸の内線が、9月11日（土）の休館日。休館日は9月11日（土）～9月12日（日）まで、丸の内線が、9月12日（日）の休館日。休館日は9月12日（日）～9月13日（月）まで、丸の内線が、9月13日（月）の休館日。休館日は9月13日（月）～9月14日（火）まで、丸の内線が、9月14日（火）の休館日。休館日は9月14日（火）～9月15日（水）まで、丸の内線が、9月15日（水）の休館日。休館日は9月15日（水）～9月16日（木）まで、丸の内線が、9月16日（木）の休館日。休館日は9月16日（木）～9月17日（金）まで、丸の内線が、9月17日（金）の休館日。休館日は9月17日（金）～9月18日（土）まで、丸の内線が、9月18日（土）の休館日。休館日は9月18日（土）～9月19日（日）まで、丸の内線が、9月19日（日）の休館日。休館日は9月19日（日）～9月20日（月）まで、丸の内線が、9月20日（月）の休館日。休館日は9月20日（月）～9月21日（火）まで、丸の内線が、9月21日（火）の休館日。休館日は9月21日（火）～9月22日（水）まで、丸の内線が、9月22日（水）の休館日。休館日は9月22日（水）～9月23日（木）まで、丸の内線が、9月23日（木）の休館日。休館日は9月23日（木）～9月24日（金）まで、丸の内線が、9月24日（金）の休館日。休館日は9月24日（金）～9月25日（土）まで、丸の内線が、9月25日（土）の休館日。休館日は9月25日（土）～9月26日（日）まで、丸の内線が、9月26日（日）の休館日。休館日は9月26日（日）～9月27日（月）まで、丸の内線が、9月27日（月）の休館日。休館日は9月27日（月）～9月28日（火）まで、丸の内線が、9月28日（火）の休館日。休館日は9月28日（火）～9月29日（水）まで、丸の内線が、9月29日（水）の休館日。休館日は9月29日（水）～9月30日（木）まで、丸の内線が、9月30日（木）の休館日。休館日は9月30日（木）～10月1日（金）まで、丸の内線が、10月1日（金）の休館日。休館日は10月1日（金）～10月2日（土）まで、丸の内線が、10月2日（土）の休館日。休館日は10月2日（土）～10月3日（日）まで、丸の内線が、10月3日（日）の休館日。休館日は10月3日（日）～10月4日（月）まで、丸の内線が、10月4日（月）の休館日。休館日は10月4日（月）～10月5日（火）まで、丸の内線が、10月5日（火）の休館日。休館日は10月5日（火）～10月6日（水）まで、丸の内線が、10月6日（水）の休館日。休館日は10月6日（水）～10月7日（木）まで、丸の内線が、10月7日（木）の休館日。休館日は10月7日（木）～10月8日（金）まで、丸の内線が、10月8日（金）の休館日。休館日は10月8日（金）～10月9日（土）まで、丸の内線が、10月9日（土）の休館日。休館日は10月9日（土）～10月10日（日）まで、丸の内線が、10月10日（日）の休館日。休館日は10月10日（日）～10月11日（月）まで、丸の内線が、10月11日（月）の休館日。休館日は10月11日（月）～10月12日（火）まで、丸の内線が、10月12日（火）の休館日。休館日は10月12日（火）～10月13日（水）まで、丸の内線が、10月13日（水）の休館日。休館日は10月13日（水）～10月14日（木）まで、丸の内線が、10月14日（木）の休館日。休館日は10月14日（木）～10月15日（金）まで、丸の内線が、10月15日（金）の休館日。休館日は10月15日（金）～10月16日（土）まで、丸の内線が、10月16日（土）の休館日。休館日は10月16日（土）～10月17日（日）まで、丸の内線が、10月17日（日）の休館日。休館日は10月17日（日）～10月18日（月）まで、丸の内線が、10月18日（月）の休館日。休館日は10月18日（月）～10月19日（火）まで、丸の内線が、10月19日（火）の休館日。休館日は10月19日（火）～10月20日（水）まで、丸の内線が、10月20日（水）の休館日。休館日は10月20日（水）～10月21日（木）まで、丸の内線が、10月21日（木）の休館日。休館日は10月21日（木）～10月22日（金）まで、丸の内線が、10月22日（金）の休館日。休館日は10月22日（金）～10月23日（土）まで、丸の内線が、10月23日（土）の休館日。休館日は10月23日（土）～10月24日（日）まで、丸の内線が、10月24日（日）の休館日。休館日は10月24日（日）～10月25日（月）まで、丸の内線が、10月25日（月）の休館日。休館日は10月25日（月）～10月26日（火）まで、丸の内線が、10月26日（火）の休館日。休館日は10月26日（火）～10月27日（水）まで、丸の内線が、10月27日（水）の休館日。休館日は10月27日（水）～10月28日（木）まで、丸の内線が、10月28日（木）の休館日。休館日は10月28日（木）～10月29日（金）まで、丸の内線が、10月29日（金）の休館日。休館日は10月29日（金）～10月30日（土）まで、丸の内線が、10月30日（土）の休館日。休館日は10月30日（土）～10月31日（日）まで、丸の内線が、10月31日（日）の休館日。休館日は10月31日（日）～11月1日（月）まで、丸の内線が、11月1日（月）の休館日。休館日は11月1日（月）～11月2日（火）まで、丸の内線が、11月2日（火）の休館日。休館日は11月2日（火）～11月3日（水）まで、丸の内線が、11月3日（水）の休館日。休館日は11月3日（水）～11月4日（木）まで、丸の内線が、11月4日（木）の休館日。休館日は11月4日（木）～11月5日（金）まで、丸の内線が、11月5日（金）の休館日。休館日は11月5日（金）～11月6日（土）まで、丸の内線が、11月6日（土）の休館日。休館日は11月6日（土）～11月7日（日）まで、丸の内線が、11月7日（日）の休館日。休館日は11月7日（日）～11月8日（月）まで、丸の内線が、11月8日（月）の休館日。休館日は11月8日（月）～11月9日（火）まで、丸の内線が、11月9日（火）の休館日。休館日は11月9日（火）～11月10日（水）まで、丸の内線が、11月10日（水）の休館日。休館日は11月10日（水）～11月11日（木）まで、丸の内線が、11月11日（木）の休館日。休館日は11月11日（木）～11月12日（金）まで、丸の内線が、11月12日（金）の休館日。休館日は11月12日（金）～11月13日（土）まで、丸の内線が、11月13日（土）の休館日。休館日は11月13日（土）～11月14日（日）まで、丸の内線が、11月14日（日）の休館日。休館日は11月14日（日）～11月15日（月）まで、丸の内線が、11月15日（月）の休館日。休館日は11月15日（月）～11月16日（火）まで、丸の内線が、11月16日（火）の休館日。休館日は11月16日（火）～11月17日（水）まで、丸の内線が、11月17日（水）の休館日。休館日は11月17日（水）～11月18日（木）まで、丸の内線が、11月18日（木）の休館日。休館日は11月18日（木）～11月19日（金）まで、丸の内線が、11月19日（金）の休館日。休館日は11月19日（金）～11月20日（土）まで、丸の内線が、11月20日（土）の休館日。休館日は11月20日（土）～11月21日（日）まで、丸の内線が、11月21日（日）の休館日。休館日は11月21日（日）～11月22日（月）まで、丸の内線が、11月22日（月）の休館日。休館日は11月22日（月）～11月23日（火）まで、丸の内線が、11月23日（火）の休館日。休館日は11月23日（火）～11月24日（水）まで、丸の内線が、11月24日（水）の休館日。休館日は11月24日（水）～11月25日（木）まで、丸の内線が、11月25日（木）の休館日。休館日は11月25日（木）～11月26日（金）まで、

[illegible]

TAM

PRESS RELEASE

本展のねらいとこと

1. 美術家・内藤礼が東京国立博物館と向き合い、生みだす作品空間

150年余の歴史を有する東京国立博物館には、およそ12万点の収蔵品が蓄積されています。本展では、美術家・内藤礼から、その中から選文などやり取り以外の趣意が制作に大きく関係するような現在に存在し得る某作家の作品を選び、さらに当該の趣意や発想を独自の視点で解釈することで、あらたな芸術作品を創出します。

2. 自然光のもと天気や時間により変容する、裸の空間

会場のみならず美術館の裏庭まで「裸土の大地の光景」を希求する作意により、長年蓄積されてきた同館の植物が剪除されます。また、場内の本来の照明はすべてLEDにカーペットと気密窓により最小限され、透射ガラスの窓間としてして覆われ、その空間も突然変異が待たれます。観る目的の天気や時間帯により刻々と変化する中で、作家が狙った変奏した作品の間に、目の前、実感を繰り戻しながら起こる心と自然、空と我、内と外の交感をお楽しみください。

3. 時空を超え、2会場にわたるスケールで広がる内藤礼の世界

本展は、エルメス財団と共同で企画されました。作家の経験は当館を経て、2か月後に公開された展覧会メゾンエルメスの空間へと続き、再び広域へと開かれることになります。2会場にまたがる空間構成は、内藤が初めて見出した構想です。重なり合いつながりながらもひとつのテーマを貫くのではなく、連綿の無限に立寄る作品。それらは、現実世界よりわずかな距離を隔てられ、消える瞬間にあふれながらここぞで入る人へ入り、いつかは現実が（想像を越えて）もう一度その存在を認知させることであり、少し先に見える見えたり、少し前にあったりする見え方によって世界がゆらぐ。時空を超える構築をお楽しみください。

4

TAM

PRESS RELEASE

参考画像

6
「透明」 東京国立博物館 蔵
ガラスの器（江戸時代） 木
箱（明治時代）

7
「透明」 東京国立博物館 蔵
ガラスの器（江戸時代） 木
箱（明治時代）

8
「透明」 東京国立博物館 蔵
ガラスの器（江戸時代） 木
箱（明治時代）

9
「透明」 東京国立博物館 蔵
ガラスの器（江戸時代） 木
箱（明治時代）

10
「透明」 東京国立博物館 蔵
ガラスの器（江戸時代） 木
箱（明治時代）

東京国立博物館 本館

1937年（昭和12年）竣工。翌年開館。戦後東大敷地内で数回した日本館のあと、何回かに建て直され、現在、国営第一公園にある本館が設計されたもので、西洋風の建物に東洋品の瓦や装飾を凝らした「和洋折衷式」と呼ばれる戦前の建物です。

東京国立博物館 本館

東京国立博物館

※本館はプログラムを予定しています。詳細は、館内又は、本館ウェブサイト等でお知らせします。

3

TAM

PRESS RELEASE

広報用画像貸出

- ◆ 広報用画像を希望される方は、本館に電話でお問い合わせください。
 - ・ 広報用画像のご使用は、本館の内部でしかおこなわれるものとします。また、ご使用が無料とは必ずしも限りません。なお、随時更新中であっても、再放送・転載など二次利用される場合は別途ご承諾ください。
 - ・ 画像の加工については家族に本館広報課までご連絡ください。
 - ・ 作品写真をご利用の際は、クレジットを必ずご記載ください。
 - ・ 基本定額、画像使用確認のため、資料費、原稿の品価で本館広報課までご連絡をお願いします。
 - ・ 掲載後・送付、DVD、URL 等をも本館広報課までご連絡いただけますと幸いです。

6

(広報関係申請用紙)

「内藤礼、生まれどおいで 生きておいで」広報事務局行

FAX：03-6821-8869

E-mail：nairotei@npsppr.com

● 「買はずい」に刊載する場合は、コピー原稿を送って頂くとき、コピーボード対応が出来る場合には、両面使用と併せてお知らせ下さい。中品版はアップのうしろに掲載いたします。ただし、本誌では右記の箇条を掲載いたしません。

■ 企画制作・編集の依頼の場合にチェックをお願いください。

No.	【ご提供時に必要なクレジット表記】 ※資料作成は著作権者です。
①	内藤礼（元光のつたひ） 2023年 カラーページ・写真・動画・複製権・複製権
②	内藤礼（このことごとく 2001 年、東京プロジェクト）『きんぎょペンギンアットサイト』監修：亀岡 彰男／山嵐成茂
③	「内藤礼 i broad」2023 年、i broad 相模原駅前通商施設 (color beginning) 2023 年 起にイブニング社 監修：山嵐成茂
④	「内藤礼 i broad」2023 年、i broad 相模原駅前通商施設 (color beginning) 2023 年 起にイブニング社 監修：山嵐成茂
⑤	「内藤礼」すべて複製物、世界の内に よう子の中心にあるように存在している 2022」 2022 年、神奈川県近代美術館 監修：山嵐成茂
⑥	東京都国分館 本館外観
⑦	東京都国分館 本館 1階ラウンジ

● 費控について 下欄に記入した内容は、複製権・複製権等に関する権利の目的にのみお返し、それ以外の用途には応じません。

発行者名：	西蔵コーポレーション、特知名（ ）
媒体名：	
発行年月日を設定している場合は発行月をお知らせ下さい	コーディネーター氏 可 / 不可
掲載枚数：月	日 発売 （ 冊 ） / 発行部数 部
ご希望番名：	E-mail:
連絡先：〒	FAX:
ナットク希望：読者プレゼントとして紙10名分を	☐ 希望する ☒ 希望しない
送付先の住所：	〒

報道関係の方からの案件に際してはお問い合わせ先

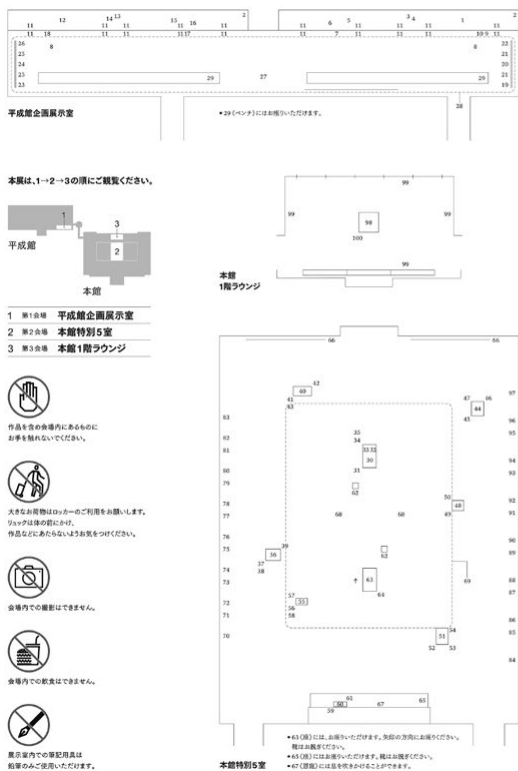
「内藤礼、生まれどおいで 生きておいで」広報事務局（サウス・プログラムセンター内）

目黒区山下三丁目一丁目

〒150-8551 東京都渋谷区南横町六丁目 KDNビル6A4階

TEL. 03-6820-8865 E-mail: nairotei@npsppr.com

会場配布作品リスト（日本語）



太陽が形づくる光と影、地が生成する水や石、大気が織りなす風や雨。美術家・内藤礼は、私たちの傍らにある自然の諸要素と日常のささやかな事物を受け止めることで、私たちが日々見過ごしている世界の片隅に宿る情景、知覚がたい密やかな現象を見つめ、「根拠のない世界的光景」を出現させてきました。精緻に構築されるその作品世界は、善悪の視座を持ちながらも、その場を訪れる人をそれぞれの沈潜にざいします。

本展は、150年の歴史を持つ東京国立博物館の収蔵品、その建築空間と
内飾との出会いを体験するために、1万平方メートルを越え、内飾は戦国時代
の土製品に自らの創造と重なる人間のことを見出した。それは、自然・
命の畏れと祈りから生まれるものでもあり、作家はそこ「[生]の内外を貫
く『悪』」を感じたといいます。生の求めに迫られてつくりだされた一つつ
の土製品は、人間本来の姿を私たちに伝えるようです。会期中、自然光に
照らした展示室の扉を、すべてに開くとともにあった生と死、人と動物
、人と自然のあいだに起る親密な協和と、そとへつかり上げられて

色彩に生を、風盤に物語を、光に祈りを見出す内藤の作品は、種々として尽きることなく私たちの世帯を満ちてきた。遥か遠い時代から続く創造の営みを想起させます。そこには、人間が繰り返してきた「つくる」ということ、今につながる「生きる」ということへの希求が垣間見られます。

時空を超えた交感がなされる会場は、空間よりも広く、時間よりも深く、目には見えない存在、耳では聞こえない声の確かなを感じ取る契機となることでしょう。本展の体験を通して、原始の地球上で生きた人々と、現代を生きる私たちに通ずる精神世界、創造の力を感じていただけたら幸いです。

会期：6月25日〔火〕～9月23日〔月・休〕
会場：東京国立博物館 平成館企画展示室、本館特別5室、本館1階ラウンジ
開館時間：9時30分～17時00分（入館は開館の30分前まで）
主催：東京国立博物館 | 特別協力：エルメス財団 | 協力：タカ・イシイギャラリー

[illegible]

内藤礼
Rei Naito: come and live
生まれておいで
生きておいで

連携企画

本展はエルメス財団と共同で企画されました。

展覧会は以下の同作家朝展へと続き、再び当館へと続く構成となっています。

「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」

会期：2024年9月7日[土]～2025年1月13日[月・祝]

会場：銀座メゾンエルメス フォーラム

(表)

[illegible]

(裏)

「内藤礼」展ページURL

https://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=2637 (最終閲覧日 2025年2月28日)

内藤礼 生まれておいで 生きておいで

TOP > 展示・催し物 > 展示 > 平成館(日本の考古・特別展) > 内藤礼 生まれておいで 生きておいで



本展チラシ
使用図版:重要文化財 足形土製品(部分) 新潟県
村上市 上山遺跡出土 縄文時代(後期)・前2000～前
1000年 東京国立博物館蔵
撮影: 島山直哉

平成館 企画展示室、本館 特別5室、本館 1階ラウンジ
2024年6月25日(火) ～ 2024年9月23日(月・休)

いいね! 2,954

ポスト

本展は、当館の収蔵品、その建築空間と美術家・内藤礼との出会いから始まりました。内藤が縄文時代の土製品に見出した、自らの創造と重なる人間のこころ。それは、自然・命への畏れと祈りから生まれたものであり、作家はそこに「生の内と外を貫く慈悲」を感じたといいます。会期中、自然光に照らし出される展示室では、かつて太陽とともにあった生と死を、人と動植物、人と自然のあわいに起こる親密な協和を、そっと浮かび上がらせます。本展を通じて、原始この地上で生きた人々と、現代を生きる私たちに通ずる精神世界、創造の力を感じていただけたら幸いです。

必ずお読みください。

本展は8月1日より事前予約制となりました。

> 日時指定予約チケット販売サイトへ移動 (アソビューに移動します)

オンライン日時指定予約チケットは、ご観覧日の前日23時59分まで販売いたします。

(注)ただし、前日までに予定数に達しなかった場合は、当日、当館正門チケット売場(窓口)で販売いたします。

> 日時指定予約について

太陽が形づく光と影、地が生成する水や石、大気が織りなす風や雨。美術家・内藤礼は、私たちの傍らにある自然の諸要素と日常のささやかな事物を受け止めることで、私たちが日々見過ごしがちな世界の片隅に宿る情景、知覚しがたい密やかな現象を見つめ、「根源的な生の光景」を出現させてきました。精緻に構築されるその作品世界は、普遍的な視座を持ちながら、その場を訪れる人をそれぞれの沈潜にいざないます。

本展は、150年の歴史を持つ東京国立博物館の収蔵品、その建築空間と内藤との出会いから始まりました。1万年という時を距え、内藤は縄文時代の土製品に自らの創造と重なる人間のこころを見出しました。それは、自然・命への畏れと祈りから生まれたものであり、作家はそこに「生の内と外を貫く慈悲」を感じたといいます。生の求めに迫られてつくりだされた一つ一つの土製品は、人間本来の姿を私たちに伝えるようです。会期中、自然光に照らし出される展示室では、かつて太陽とともにあった生と死を、人と動植物、人と自然のあわいに起こる親密な協和を、そっと浮かび上がらせます。

色彩に生を、風景に物語を、光に祈りを見出す内藤の作品は、緩々として尽きることなく私たちの世界を満たしてきた、遠か遠い時代から続く創造の営みを想起させます。そこには、人間が繰り返してきた「つくる」ということ、今につながる「生きる」ということへの希求が垣間見られます。

時空を超えた交感がなされる会場は、空間よりも広く、時間よりも深く、目には見えない存在、耳では聞かない声の確かさを感じ取る契機となることでしょう。本展の体験を通して、原始この地上で生きた人々と、現代を生きる私たちに通ずる精神世界、創造の力を感じていただけたら幸いです。

内藤礼(ないとう れい)

1961年広島県生まれ、現在東京を拠点に活動。「地上に存在することは、それ自体、祝福であるのか」をテーマに作品を制作。その作品制作において「生と死」は分別できないものとして問われている。光、空気、水、重力といった自然がもたらす事象を通して「地上の生の光景」を見出す空間作品を生み出してきた。

これまでの主な個展に「地上にひとつの場所を」佐賀県エキジビット・スペース(東京、1991年)、「地上にひとつの場所を」第4回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館(1997年)、「Being Called」カルメル会修道院(フランクフルト、1997年)、「すべて動物は、世界の内にちようど水の中に水があるように存在している」神奈川県立近代美術館 鎌倉(2009年)、「信の感情」東京都庭園美術館(2014年)、「信の感情」パリ日本文化会館(2017年)、「Two Lives」テルアビブ美術館(2017年)、「明るい地上には あなたの姿が見える」水戸芸術館現代美術ギャラリー(2018年)、「うつしあう創造」金沢21世紀美術館(2020年)、「breath」ミュンヘン州立版画素描館(2023年)がある。

恒久展示作品に「このことを」家プロジェクト きんざ、ベネッセアートサイト直島(2001年)、「母型」豊島美術館(2010年)がある。1994年日本現代美術奨励賞(インスタレーション部門)、2003年第一回アサヒビル芸術賞、2018年第60回毎日芸術賞、2019年第69回芸術選奨文部科学大臣賞(美術部門)受賞。

連携企画

本展は、エルメス財団と共同で企画されました。

展覧会は、同じタイトルのもとに、当館からはじまり、銀座メゾンエルメス フォーラムへと続きながら、再び当館へと戻る円環として構想されました。

「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」

会期 2024年9月7日(土)～2025年1月13日(月・祝)

会場 銀座メゾンエルメス フォーラム

SNS (X) 投稿例

東京国立博物館 広報室 @T... 2024/03/16
6/25より開催予定の「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」のフライヤーが完成しました。フライヤーには、美術家・#内藤礼 によるこの展覧会のために紡がれた詩が掲載されています。
#東京国立博物館 内でも配布しておりますので、ぜひ手に取ってご覧ください。

tnm.jp/modules/r_free...



チラシ完成告知

東京国立博物館 広報室 @... 2024/04/06 ...
美術家・#内藤礼 は、縄文時代の土製品に自らの創造と重なる人間のこころを見出しました。生の求めに迫られてつくりだされた一つ一つの土製品は、人間本来の姿を私たちに伝えるようです。

内藤礼 生まれておいで 生きておいで
6/25～9/23
平成館企画展示室、本館特別5室他

tnm.jp/modules/r_free...

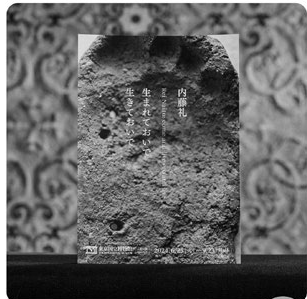


開催前告知

東京国立博物館 広報室 @T... 2024/04/11 ...
【#内藤礼 展 前売券販売開始】
6/25より開催予定の「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」の前売券を本日から販売開始しました。
詳細は #東京国立博物館 公式サイトにてご覧ください。

tnm.jp/modules/r_free...

#生まれておいで #生きておいで #上野 #reinato #tokyomuseums #museum



前売り開始告知

東京国立博物館 広報室 @... 2024/05/02 ...
色彩に生を、風景に物語を、光に祈りを見出す #内藤礼 の作品は、遅か遅い時代から続く創造の営みを思わせます。そこには、人間が繰り返してきた「つくる」ということ、今に繋がる「生きる」ということへの希求が垣間見られます。

「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」
tnm.jp/modules/r_free...



開催前告知

東京国立博物館 広報室 @... 2024/05/02 ...
返信先: @TNM_PRさん
6/25～開催予定の「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」前売券発売中！
tnm.jp/modules/r_free...

写真(参考作品): 「内藤礼: すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している 2022」2022 年、神奈川県立近代美術館 葉山
《母型》2022 [2009] 年
水、ガラス瓶
撮影: 畠山直哉



前売り販売中告知

東京国立博物館 広報室 @... 2024/06/24 ...
明日6/25(火)、「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」が開幕します。
本展では、美術家・#内藤礼 が、当館の収蔵品から選んだ考古遺物とともに空間作品を展開します。美術家が博物館とその建物、歴史や収蔵品とじっくり向き合ってきた、#東京国立博物館 ならではの作品をお楽しみください。



開幕日前日

東京国立博物館 広報室 @... 2024/06/27 ...
6/25(火)より「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」が開幕しました。(9/23(月・休)まで)

本展は、会場が「平成館企画展示室」、「本館特別5室」、「本館1階ラウンジ」の3か所に分かれています。館内の順路について、1089ブログで紹介しています。

tnm.jp/modules/rblog/...

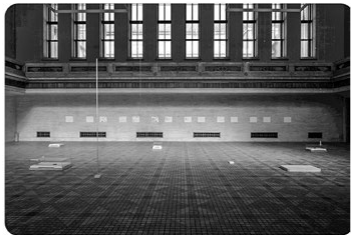
#内藤礼 #東京国立博物館



Blogエントリー告知 (順路案内)

東京国立博物館 広報室 @... 2024/08/28 ...
考古遺物は長い間土の中にあった後、太陽の下に掘り出されたものです。「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」の第2会場では、通常人工照明でご鑑賞いただく土製品を、美術家が生み出す空間で自然の光の中ご覧いただけます。

写真:
「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」第2会場
撮影: 畠山直哉



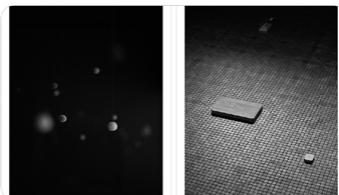
開催中告知

東京国立博物館 広報室 @... 2024/08/29 ...
「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」の #図録 が販売開始となりました。

本館ミュージアムショップで、お手に取ってご覧ください。また、HeHeでオンラインでもご購入いただけます (代金のみ、送料無料)。

定価: 3,850円 (税込)
hehepress.stores.jp/items/667a4f6a...

#東京国立博物館 #内藤礼 #reinato



カタログ販売告知開始

SNS (Instagram) 投稿例



開催告知（順路案内）



開催前告知（会場）



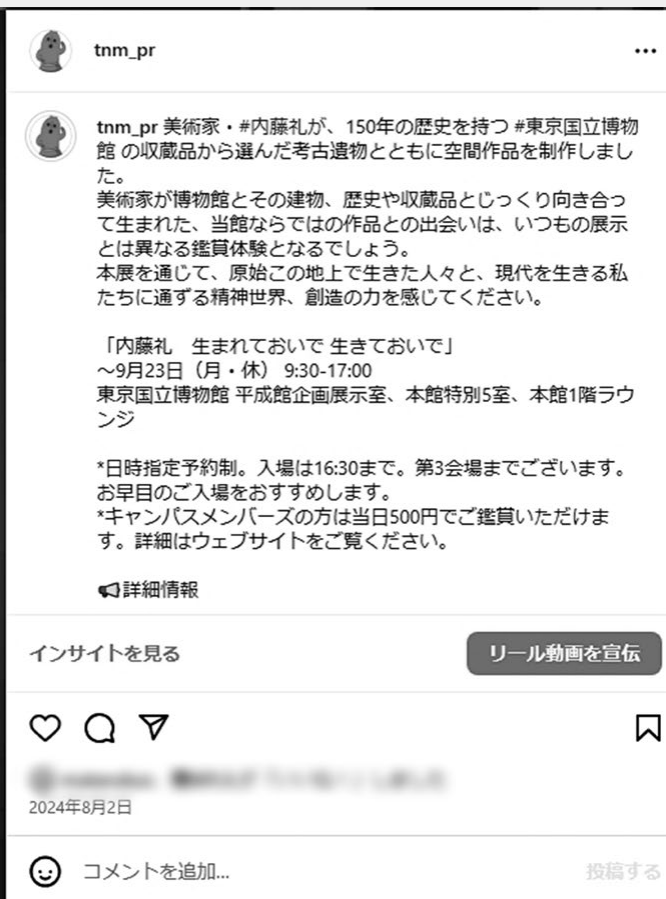
開催中ブログ告知（デザイン）



開催中告知



リール動画告知



媒体掲載リスト

この表は広報事務局の株式会社ユース・プランニング センター作成のリストを元に編集した。

新聞各紙にレビュー記事が掲載されたほか、普段あまり取り上げられないファッション誌などでも詳細に紹介された。また、「イベントリスト」と呼ばれる各媒体における美術展リストへの掲載も多くあった。加えて、今回は、主にこれまで当館への来館がなかった新規来館者層の獲得を目指してデジタル媒体（ウェブサイト、SNSなど）での紹介を中心にプロモーションを行ったため、その成果もあり、これら既存メディアに加え、多くのWEB媒体での紹介があった。年末には、TOKYO ART BEATの全国1万人を超えるアンケート調査により「2024年ベスト展覧会」で1位に、また美術手帖の「読者が選ぶ2024年のベスト展覧会」でも4位に選出された。一方、朝日、毎日、日経各紙による2024年展覧会（美術界）回顧記事などでも記載されるなど、多くのメディアで話題となった。

No.	媒体社名	媒体名	掲載日	内容
新聞				
1	日本経済新聞社	日本経済新聞（東京）夕刊	24/6/21	内藤礼 生まれておいで 生きておいで
2	日本経済新聞社	日本経済新聞（大阪）夕刊	24/6/21	内藤礼 生まれておいで 生きておいで
3	日本経済新聞社	日本経済新聞（名古屋）夕刊	24/6/21	内藤礼 生まれておいで 生きておいで
4	日本経済新聞社	日本経済新聞（福岡）夕刊	24/6/21	内藤礼 生まれておいで 生きておいで
5	毎日新聞社	毎日新聞（東京）夕刊	24/7/29	つくること、生きること 縄文の遺物との対話 東博で内藤礼展
6	毎日新聞社	毎日新聞（大阪）夕刊	24/7/29	つくること、生きること 縄文の遺物との対話 東博で内藤礼展
7	毎日新聞社	毎日新聞（北九州）夕刊	24/7/29	つくること、生きること 縄文の遺物との対話 東博で内藤礼展
8	読売新聞社	読売新聞（東京）夕刊	24/8/3	内藤礼さん 東博ごと芸術に 建築空間生かし個展
9	読売新聞社	読売新聞（札幌）夕刊	24/8/3	内藤礼さん 東博ごと芸術に 建築空間生かし個展
10	読売新聞社	読売新聞（高岡）夕刊	24/8/3	内藤礼さん 東博ごと芸術に 建築空間生かし個展
11	読売新聞社	読売新聞（福岡）夕刊	24/8/3	内藤礼さん 東博ごと芸術に 建築空間生かし個展
12	朝日新聞社	朝日新聞（東京）夕刊	24/8/6	評 「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」大空間と対峙 小さきものたち
13	朝日新聞社	朝日新聞（大阪）夕刊	24/8/6	評 「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」大空間と対峙 小さきものたち
14	朝日新聞社	朝日新聞（北九州）夕刊	24/8/6	評 「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」大空間と対峙 小さきものたち
15	日本経済新聞社	日本経済新聞（東京）夕刊	24/12/3	2024年の美術 収蔵品×現代アーティスト、コラボの妙
16	朝日新聞社	朝日新聞デジタル	24/12/17	（回顧2024）美術 「人間とは」、AIで手仕事で問う
17	毎日新聞社	毎日新聞（東京）夕刊	24/12/23	美術 この1年 問い直し、永続的に
18	東洋経済日報社	東洋経済日報	24/6/14	プレゼント 内藤礼 生まれておいで 生きておいで
19	日本共産党中央委員会	しんぶん赤旗	24/8/23	生と死をつなぐ祈りの美術
20	電波タイムス社	電波タイムズ	24/8/23	テレビ欄 日曜美術館

No.	媒体社名	媒体名	掲載日	内容
21	高知新聞社	高知新聞 (高知)	24/9/16	アートがあれば…「内藤礼」展 「もともと」をかたちに
22	岩手日報社	岩手日報 (盛岡)	24/9/17	アートがあれば…「内藤礼」展 悠久の「くうき」表現
23	千葉日報社	千葉日報 (千葉)	24/9/18	アートがあれば…「内藤礼」展 「もともと」をかたちに
24	茨城新聞社	茨城新聞 (水戸)	24/9/19	アートがあれば…「内藤礼」展 「もともと」をかたちに
25	新潟日報社	新潟日報 (新潟)	24/9/20	アートがあれば…「内藤礼」展 当初の空間に悠久の流れ
26	山陽新聞社	山陽新聞 (岡山)	24/9/20	アートがあれば…「内藤礼」展 「もともと」をかたちに
27	新日本海新聞社	日本海新聞 (鳥取)	24/9/20	アートがあれば…「内藤礼」展 「もともと」をかたちに
28	南日本新聞社	南日本新聞 (鹿児島)	24/9/20	アートがあれば…「内藤礼」展 「もともと」をかたちに
29	埼玉新聞社	埼玉新聞 (さいたま)	24/9/22	アートがあれば…「内藤礼」展 「もともと」をかたちに
雑誌・書籍ほか				
32	ハースト婦人画報社	ELLE 4月号	24/2/28	海外でも評価が高い日本人作家の個展がめじろ押し
33	プレビジョン	FREECELL 3月5日号	24/3/5	表2、目次 内藤礼 生まれておいで 生きておいで
34	プレビジョン	spoon. 8月号	24/6/28	表2、目次 内藤礼 生まれておいで 生きておいで
35	プレビジョン	FREECELL 7月16日号	24/7/16	表2、目次 内藤礼 生まれておいで 生きておいで
36	プレビジョン	spoon. 10月号	24/8/28	表2、目次 内藤礼 生まれておいで 生きておいで
37	コンデナスト・ジャパン	GQ 5月号	24/4/1	自然光に照らされる東京国立博物館の空間も見どころ
38	JTBパブリッシング	ノジュール 6月号	24/5/31	自然光の中で変容する作品空間も楽しむ チケットプレゼント
39	草月文化事業	季刊 草月 361号	24/6/1	草月美術館 内藤礼 生まれておいで 生きておいで 招待券 (1P)
40	龍生華道会	いけばな龍生 6月号	24/6/1	内藤礼 生まれておいで 生きておいで 招待券プレゼント
41	東海教育研究所	望星 7月号	24/6/14	美術家・内藤礼が生み出すあらたな作品空間 招待券プレゼント
42	彰国社	ディテール 6月17日号	24/6/17	美術家・内藤礼が博物館と向き合い生み出す、新たな作品空間
43	生活の友社	美術の窓 7月号	24/6/20	内藤礼 生まれておいで 生きておいで チケプレ
44	CCCメディアハウス	FIGARO japon 8月号	24/6/20	原始と現代、この地上で通じ合う精神世界。
45	エー・アール・ティー	江戸楽 7月号	24/6/20	内藤礼 生まれておいで 生きておいで
46	白夜書房	懸賞なび 8月号	24/6/22	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」招待券
47	マガジンハウス	クロワッサン 7月10日号	24/6/25	アート散歩。縄文と現代、時空を超えて静かな対話が広がる場。
48	生活の友社	アートコレクターズ 7月号	24/6/25	内藤礼 生まれておいで 生きておいで チケプレ
49	宣伝会議	ブレーン 8月号	24/7/1	2つの会場にわたって展開する作品空間
50	マガジンハウス	Casa BRUTUS 8月号	24/7/9	内藤礼が見出す「地上の生」が東博の歴史と呼応する。(1P)
51	マガジンハウス	GINZA 8月号	24/7/12	『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』
52	サン・アート	月刊美術 8月号	24/7/20	内藤礼 生まれておいで 生きておいで 招待券プレゼント
53	光文社	女性自身 8月6日号	24/7/23	知ってる人だけウフフな展覧会 光、空気、水……。自然現象を“感じる”奇跡のアート体験

No.	媒体社名	媒体名	掲載日	内容
54	建築画報社	建築画報 398号	24/7/31	変容を繰り返しながら起こる人と自然、生と死、内と外の交感
55	集英社	eclat 9月号	24/8/1	連綿と続く創造の営みをたどるようなひと時を
56	新建築社	新建築 8月号	24/8/1	そっと時代を超えてすべての命を肯定する
57	Artist Magazine	ART COLLECTION+DESIGN 8月号	24/8/1	逝者之枕上の生命之輕——内藤禮與時間遺物的對話 (6P)
58	ダイヤモンド社	TV station 関東版 8月24日号	24/8/7	日曜美術館 現代日本を代表する美術家の内藤礼さん
59	ダイヤモンド社	TV station 関西版 8月24日号	24/8/7	日曜美術館 現代日本を代表する美術家の内藤礼さん
60	宝島社	リンネル 10月号	24/8/20	原始から現代に続く、創造の力を感じる
61	新潮社	芸術新潮 9月号	24/8/25	内藤礼 トーハク、太陽、時の泡
62	商店建築社	商店建築 9月号	24/8/28	内藤礼 生まれておいで 生きておいで
63	ハースト婦人画報社	25ans 10月号	24/8/28	東博の建築や歴史から生まれた新たな芸術作品
64	青土社	ユリイカ 9月号	24/9/1	内藤礼インタビュー 石は石にしか見えない (7P)
65	都市出版	東京人 10月号	24/9/3	内藤礼 生まれておいで 生きておいで
66	新建築社	新建築 住宅特集 10月号	24/9/19	内藤礼 生まれておいで 生きておいで
67	ハースト婦人画報社	Harper's BAZAAR 11月号	24/9/20	内藤礼と小池一子が語る、時間、記憶、命 (8P)
68	音美衣社	ONBEAT vol.21	24/10/8	美術家 内藤礼 生まれておいで 生きておいで (16P)
69	ENGAWA	Tokyo Weekender 7月19日号	24/7/19	Rei Naito: come and live - go and live' at the Tokyo National Museum
70	さくらタイムズ	さくらタイムズ 7月号	24/7/20	内藤礼 生まれておいで 生きておいで
TV・ラジオ				
73	中央エフエム	Hello! RADIO CITY	24/7/19	アートにフォーカス 東京国立博物館で開催中の「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」
74	NHK Eテレ	日曜美術館	24/8/25 24/9/1	美術家・内藤礼 地上に生きる祝福
75	BSテレ東	ファッション通信	24/9/14	【The Contemporary ～多様化する現代アート～】

No.	媒体名	掲載日	内容	URL
ウェブサイト 最終閲覧日:2024年10月15日				
0	美術手帖	24/1/1	東博館長、「博物館を取り巻く環境の厳しさ変わらず」	https://bijutsutecho.com/magazine/news/headline/28283
1	Yahoo!ニュース	24/1/1	東博館長、「博物館を取り巻く環境の厳しさ変わらず」	https://news.yahoo.co.jp/articles/87984856d0d902303fddaf06c3051e339b5a8533
2	TOKYO ART BEAT	24/2/6	内藤礼の展覧会が東京国立博物館で開催。「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」は6月25日から。銀座メゾンエルメスとの2館を往還する構成	https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/rei-naito-news-202402
3	TOKYO ART BEAT	24/2/6	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」	https://www.tokyoartbeat.com/events/-/Rei-Naito-Come-and-Live-Go-and-Live/1DC8EF86/2024-06-25

No.	媒体名	掲載日	内容	URL
4	美術手帖	24/2/7	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」が東京国立博物館で開催	https://bijutsutecho.com/magazine/news/exhibition/28430?preview=4be9f0e66b21d81a1eab95fa573163fa
5	美術手帖	24/2/7	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」が東京国立博物館で開催	https://bijutsutecho.com/magazine/news/exhibition/28430
6	Yahoo!ニュース	24/2/7	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」が東京国立博物館で開催	https://news.yahoo.co.jp/articles/541fb95a456171e4412bdaff367254bfcee5d2f6
7	FASHION PRESS	24/2/8	内藤礼の展覧会が東京国立博物館で - 縄文時代の土製品に着目、自然光に満たされた空間作品を展開	https://www.fashion-press.net/news/114795
8	ART Agenda	24/2/8	内藤礼 生まれておいで 生きておいで	https://www.artagenda.jp/exhibition/detail/9460
9	sfumart	24/2/8	内藤礼 生まれておいで 生きておいで	https://sfumart.com/exhibition/18217/
10	IM	24/2/9	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」	https://www.museum.or.jp/event/115366
11	Fashionsnap.com	24/2/14	内藤礼が東京国立博物館で展覧会を開催 建築や歴史を読み解いた空間作品を披露	https://www.fashionsnap.com/article/2024-02-14/rei-naito-exhibition/
12	mixiニュース	24/2/14	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」展が開催 エルメスと東京国立博物館が共同で企画	https://news.mixi.jp/view_news.pl?id=7749127&media_id=63&from=recent_list
13	Peachy	24/2/14	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」展が開催 エルメスと東京国立博物館が共同で企画	https://news.livedoor.com/article/detail/25874745/
14	KAMADO	24/2/18	内藤礼 生まれておいで 生きておいで 展覧会チケットプレゼント	https://kamado-japan.com/exhibition/360/
15	AXIS Web Magazine	24/2/19	東京国立博物館と銀座メゾンエルメス フォーラムをつなぐ展覧会「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」開催	https://www.axismag.jp/posts/2024/02/575428.html
16	NiEW	24/3/5	内藤礼の企画展が東京国立博物館で開催、鎧戸を開放した東博の「裸の空間」を鑑賞	https://niewmedia.com/news/034095/
17	art access	24/3/11	内藤礼 生まれておいで 生きておいで	http://www.art-access.jp/exhibit/naito2024.html
18	Padograph	24/3/23	内藤礼 生まれておいで 生きておいで	https://padograph.com/ja/events/1779
19	marie claire	24/4/9	「地上の生の光景」を見出す美術家・内藤礼の個展。東京国立博物館「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」	https://marieclairejapon.com/culture/169278/
20	JDN	24/4/20	内藤礼 生まれておいで 生きておいで	https://www.japandesign.ne.jp/event/naitorei-tnm/
21	GQ	24/4/23	GWや夏休みにチェックすべき展覧会をピックアップ！	https://www.gqjapan.jp/article/20240423-best-exhibition-for-summer
22	日本大阪芸術視覚協会	24/4/27	内藤礼 生まれておいで 生きておいで	https://www.osakavision.jp/8882.html
23	Euphoric	24/4/30	【特典付】「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」が東京国立博物館で開催！	https://euphoric-arts.com/exhibition-with-ticket/rei-naito/
24	TimeOut	24/5/8	内藤礼 生まれておいで 生きておいで	https://www.timeout.jp/tokyo/ja/%E3%82%A2%E3%83%BC%E3%83%88/rei-naito-come-and-live

No.	媒体名	掲載日	内容	URL
25	TOKYO ART BEAT	24/5/28	【2024年版】6月スタートの全国おすすめ展覧会14選：フィリップ・パレーノ、内藤礼、北川民次、梅津庸一、加茂克也の個展など	https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/best-exhibitions-starting-in-june-202405%E3%80%90%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E3%80%91%E5%86%85%E8%97%A4%E7%A4%BC%E3%80%80%E7%94%9F%E3%81%BE%E3%82%8C%E3%81%A6%E3%81%8A%E3%81%84%E3%81%A7%20%E7%94%9F%E3%81%8D%E3%81%A6%E3%81%8A%E3%81%84%E3%81%A7%EF%BC%88%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E5%9B%BD%E7%AB%8B%E5%8D%9A%E7%89%A9%E9%A4%A8%EF%BC%89
26	ぴあニュース	24/6/3	『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』東京国立博物館で 同館の収蔵品や建築と向き合い新たな空間作品を展示	https://lp.p.pia.jp/article/news/370222/index.html
27	ぴあニュース (X)	24/6/3	『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』東京国立博物館で 同館の収蔵品や建築と向き合い新たな空間作品を展示	https://x.com/artpia_pia/status/1797456888902328538
28	Yahoo!ニュース	24/6/3	『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』東京国立博物館で 同館の収蔵品や建築と向き合い新たな空間作品を展示	https://news.yahoo.co.jp/articles/bbdacaab8500cc67f7ce1777f2739b77a68105a4
29	Woman excite.	24/6/3	『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』東京国立博物館で 同館の収蔵品や建築と向き合い新たな空間作品を展示	https://woman.excite.co.jp/article/lifestyle/rid_LP_P_PIA_e719a356_db66_4ba4_a14d_4e222d4facc9/
30	eHILLS CLUB	24/6/3	150年余の歴史を有する東京国立博物館と向き合い、壮大なスケールで生まれる作品空間	https://www.ehills.co.jp/rp/dfw/EHILLS/event/eventinfo/240625_ReiNaito/index.php
31	@niftyニュース	24/6/3	『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』東京国立博物館で 同館の収蔵品や建築と向き合い新たな空間作品を展示	https://news.nifty.com/article/entame/movie/12178-3089288/
32	au webポータル	24/6/3	『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』東京国立博物館で 同館の収蔵品や建築と向き合い新たな空間作品を展示	https://article.auone.jp/detail/1/5/9/405_9_r_20240603_1717385917971330
33	活版印刷アラカルト	24/6/3	【展覧会 予告】東京国立博物館 特別展 内藤 礼 生まれておいで 生きておいで '24年6月25日－9月23日	http://www.robundo.com/salama-press-club/wordpress/02/2024/06/03/%E3%80%90%E5%B1%95%E8%A6%A7%E4%BC%9A%E3%80%91%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E5%9B%BD%E7%AB%8B%E5%8D%9A%E7%89%A9%E9%A4%A8%EF%BD%9C%E7%89%B9%E5%88%A5%E5%B1%95%E3%80%80%E5%86%85%E8%97%A4-%E7%A4%BC%E3%80%80%E7%94%9F/
34	ArtSticker	24/6/4	内藤礼 生まれておいで 生きておいで	salama-press-club/
35	ぴあニュース	24/6/5	【プレゼント】東京国立博物館『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』招待券 5組10名様！	wordpress/02/2024/
36	美術展ナビ	24/6/6	内藤礼 生まれておいで 生きておいで	https://artexhibition.jp/exhibitions/20240531-AEJ2094424/
37	ARToVILLA (instagram)	24/6/6	今月、これに行きたい アート備忘録	https://www.instagram.com/artovilla_jp/reel/C71H-f857KJ/

No.	媒体名	掲載日	内容	URL
38	藝大アートプラザ	24/6/7	2024年上野エリア&都内開催の気になる展覧会10選！(下半期編)	https://artplaza.geidai.ac.jp/sights/24547/
39	artscape	24/6/14	内藤礼 生まれておいで 生きておいで	https://artscape.jp/exhibitions/15419/
40	TOKYO ART BEAT	24/6/19	【2024年版】夏休みに見たい展覧会20選(東京編)	https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/recommended-exhibitions-2024-summer-tokyo
41	Yahoo!ニュース	24/6/19	【2024年版】夏休みに見たい展覧会20選(東京編)	https://news.yahoo.co.jp/articles/9890b71c3fc56382de24169000d5740f29f5c964?page=4
42	イロハニアート.	24/6/20	東京国立博物館で開催！「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」展	https://irohani.art/event/23476/
43	dmenuニュース	24/6/20	東京国立博物館で開催！「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」展	https://topics.smt.docomo.ne.jp/article/irohani/trend/irohani-23476
44	gooニュース	24/6/20	東京国立博物館で開催！「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」展	https://news.goo.ne.jp/article/irohani/trend/irohani-23476.html
45	madame FIGARO.jp	24/6/22	梅雨の時期に訪れたい、注目の展覧会4選。原始と現代、この地上で通じ合う精神世界。『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』	https://madamefigaro.jp/culture/240622-art.html
46	IM	24/6/24	1万年の時を経て、こころと向き合うかたちの共演 — 東京国立博物館「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」	https://www.museum.or.jp/news/117064
47	TRILL	24/6/24	いま訪れたい、注目の展覧会4選。梅雨時の休日はアート鑑賞でゆっくり過ごしませんか？	https://trilltrill.jp/articles/3682152
48	美術手帖	24/6/25	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」(東京国立博物館)開幕レポート。「生」をめぐる往還	https://bijutsutecho.com/magazine/news/report/29136
49	Yahoo!ニュース	24/6/25	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」(東京国立博物館)開幕レポート。「生」をめぐる往還	https://news.yahoo.co.jp/articles/bc24276255f3a14b5d9b6a457103a10ea0e19576
50	Numero TOKYO	24/6/25	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」が開催@東京国立博物館(東京・上野)	https://numero.jp/news-20240625-reinaito/
51	TECTURE MAG	24/6/26	東京国立博物館にて展覧会「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」開催	https://mag.tecture.jp/event/20240626-113628/
52	TOKYO ART BEAT	24/6/27	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」(東京国立博物館)レポート。縄文の土製品や作品から発せられる生の呼びかけ	https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/rei-naito-report-202406
53	ネットTAM	24/6/27	内覧会レポート 「生きていることの不思議さ、時代を超えて感じるつながりと幸せ」	https://www.nettam.jp/blog/2024/06/rei-naito-come-and-live-go-and-live/
54	ARTnews JAPAN	24/6/28	今週末に見たいアートイベントTOP5: 内藤礼が縄文の土製品から見出す人間本来の力、布施琳太郎が描く「大地」と「性」の関係	https://artnewsjapan.com/article/2178
55	美術手帖	24/6/28	今週末に見たい展覧会ベスト17。カール・アンドレ、KYNEから内藤礼の個展まで	https://bijutsutecho.com/magazine/news/exhibition/29146
56	Yahoo!ニュース	24/6/28	梅雨の時期に訪れたい、注目の展覧会4選。	https://news.yahoo.co.jp/articles/ec957d2024007286689ff22210a0c2e31ca7d016
57	TimeOut	24/6/28	縄文時代の出土品とともに展示、「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」展が開幕	https://www.timeout.jp/tokyo/ja/news/naito-rei-come-and-live-go-and-live-062824

No.	媒体名	掲載日	内容	URL
58	TOKYO ART BEAT	24/7/3	週末みたい展覧会5選。今週は金沢21世紀美術館、内藤礼、ライゾマティクスの個展、柳宗悦と朝鮮民族美術館など。【7月第1週】	https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/recommended-exhibitions-for-weekend-20240703
59	Yahoo!ニュース	24/7/3	週末みたい展覧会5選。今週は金沢21世紀美術館、内藤礼、ライゾマティクスの個展、柳宗悦と朝鮮民族美術館など。【7月第1週】	https://news.yahoo.co.jp/articles/6f6bc7172c7987b1f397bde8d33d43ac02b2c742
60	sfumart	24/7/4	東京国立博物館で内藤礼が繋ぐ 現代と”かつての生”【東京国立博物館】	https://sfumart.com/column/21472/
61	architecturephoto	24/7/5	美術家の内藤礼の、東京国立博物館での展覧会「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」の入場チケットをプレゼント。	https://architecturephoto.net/210675/
62	ARTnews JAPAN	24/7/5	いま、東京で見るべき展覧会6選。終了間近のブランクから内藤礼まで	https://artnewsjapan.com/article/2460
63	ぴあニュース	24/7/9	水先案内人のおすすめ 内藤礼 生まれておいで 生きておいで	https://lp.p.pia.jp/article/pilotage/375372/index.html
64	アートテラー・とにへの【ここにしかない美術室】	24/7/9	内藤礼 生まれておいで 生きておいで	https://ameblo.jp/artony/entry-12857624167.html
65	the fashion post	24/7/16	【開催中】今週のTFPのおすすめ展覧会	https://fashionpost.jp/news/106107
66	ELLE	24/7/17	【東京】夏休みにいきたい、アート&デザインの展覧会おすすめ10	https://www.elle.com/jp/decor/art/g61565875/art-exhibition-2407/
67	ぴあニュース	24/7/19	『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』レポート 縄文の土製品に見出すかつての「生」の痕跡	https://lp.p.pia.jp/article/news/377560/index.html?detail=true
68	Yahoo!ニュース	24/7/19	『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』レポート 縄文の土製品に見出すかつての「生」の痕跡	https://news.yahoo.co.jp/articles/63052876bcabad6d845070b5f4ce3e93d8843d4d
69	Woman excite.	24/7/19	『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』レポート 縄文の土製品に見出すかつての「生」の痕跡	https://woman.excite.co.jp/article/lifestyle/rid_LP_P_PIA_08bfb8e6_cbd44cf_8ba5_809c1c6ca445/
70	au webポータル	24/7/19	『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』レポート 縄文の土製品に見出すかつての「生」の痕跡	https://article.auone.jp/detail/1/5/9/405_9_r_20240719_1721382002910303
71	@niftyニュース	24/7/19	『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』レポート 縄文の土製品に見出すかつての「生」の痕跡	https://news.nifty.com/article/entame/movie/12178-3219987/
72	excite.ニュース	24/7/19	『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』レポート 縄文の土製品に見出すかつての「生」の痕跡	https://www.excite.co.jp/news/article/pia_jp_08bfb8e6_cbd44cf_8ba5_809c1c6ca445/
73	Ameba News	24/7/19	『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』レポート 縄文の土製品に見出すかつての「生」の痕跡	https://news.ameba.jp/entry/20240719-35134607/
74	美術展ナビ	24/7/20	【レビュー】「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」東京国立博物館で9月23日まで 東博150年の歴史と向き合いながら かつて生きた証を感じる	https://artexhibition.jp/topics/news/20240717-AEJ2208136/
75	ELLE	24/7/25	【2024年下半年】行っておくべき国内アートイベント24選	https://www.elle.com/jp/culture/music-art-book/g61644520/2024-mustsee-art-events-240725-hns/
76	毎日新聞	24/7/29	つくること、生きること 縄文の遺物との対話 東博で内藤礼展	https://mainichi.jp/articles/20240729/dde/012/040/005000c

No.	媒体名	掲載日	内容	URL
77	JBpress autograph	24/7/30	豊島美術館の《母型》で知られる美術家・内藤礼の個展開催、縄文の遺物と現代アート、死と生が親密に協和する世界 「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」開幕、建設当初の「裸の空間」になった東京国立博物館特別5室	https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/82010
78	Yahoo!ニュース	24/7/30	豊島美術館の《母型》で知られる美術家・内藤礼の個展開催、縄文の遺物と現代アート、死と生が親密に協和する世界	https://news.yahoo.co.jp/articles/bf109deae20379c9d5e165e571a708842cbb1153
79	BIGLOBEニュース	24/7/30	豊島美術館の《母型》で知られる美術家・内藤礼の個展開催、縄文の遺物と現代アート、死と生が親密に協和する世界	https://news.biglobe.ne.jp/trend/0730/jbp_240730_6562550847.html
80	dメニューニュース	24/7/30	豊島美術館の《母型》で知られる美術家・内藤礼の個展開催、縄文の遺物と現代アート、死と生が親密に協和する世界	https://topics.smt.docomo.ne.jp/article/jbpress/entertainment/jbpress-82010?fm=latestnews
81	gooニュース	24/7/30	豊島美術館の《母型》で知られる美術家・内藤礼の個展開催、縄文の遺物と現代アート、死と生が親密に協和する世界	https://news.goo.ne.jp/article/jbpress/entertainment/jbpress-82010.html
82	ライブドアニュース	24/7/30	豊島美術館の《母型》で知られる美術家・内藤礼の個展開催、縄文の遺物と現代アート、死と生が親密に協和する世界	https://news.livedoor.com/article/detail/26889342/
83	dメニューマナー	24/7/30	豊島美術館の《母型》で知られる美術家・内藤礼の個展開催、縄文の遺物と現代アート、死と生が親密に協和する世界	https://money.smt.docomo.ne.jp/news-detail/1494261?ref=news-category_new
84	ニフティニュース	24/7/30	豊島美術館の《母型》で知られる美術家・内藤礼の個展開催、縄文の遺物と現代アート、死と生が親密に協和する世界 「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」開幕、建設当初の「裸の空間」になった東京国立博物館特別5室	https://news.nifty.com/article/economy/economyall/12114-3248748/
85	pen online	24/8/1	美術家・内藤礼が、東京国立博物館の収蔵品や建築と向き合う。『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』見どころ	https://www.pen-online.jp/article/016636.html
86	クロワッサンオンライン	24/8/1	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」東京国立博物館【青野尚子のアート散歩】	https://croissant-online.jp/life/221439/
87	ブレーン	24/8/2	2024年8月号 ブレーン CREATIVE NEWS 内藤礼 生まれておいで 生きておいでほか展覧会情報	https://mag.sendenkaigi.com/brain/202408/creative-news/030065.php
88	読売新聞オンライン	24/8/3	内藤礼さん 東博ごと芸術に 建築空間生かし個展	https://www.yomiuri.co.jp/article-search/detail/20240803J1TYE5P0400030/%E5%86%85%E8%97%A4%E7%A4%BC/
89	Yahoo!ニュース	24/8/3	夏休みに行きたい、国内アートイベント24選	https://news.yahoo.co.jp/articles/88bba168722aa80491ea8094d963f2b9b25d1cdc?page=2
90	美術手帖	24/8/4	内藤礼インタビュー:「生きておいで」に込めた意味	https://bijutsutecho.com/magazine/interview/29181
91	朝日新聞DIGITAL	24/8/6	(評・美術)「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」大空間と対峙、小さきものたち	https://www.asahi.com/articles/DA3S16004467.html
92	美術手帖	24/8/8	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」が銀座メゾンエルメス フォーラムで開催へ	https://bijutsutecho.com/magazine/news/exhibition/29371
93	TOKYO ART BEAT	24/8/10	内藤礼インタビュー。東京国立博物館「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」展で追求した縄文と現代の「生」のリアリティ(文:永田晶子)	https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/rei-naito-interview-202407

No.	媒体名	掲載日	内容	URL
94	CINRA	24/8/14	東京国立博物館『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』レポ。縄文の土製品から、生と死に思いをはせる	https://www.cinra.net/article/202408-umareteoid_imgwyk
95	緑のgooニュース	24/8/14	東京国立博物館『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』レポ。縄文の土製品から、生と死に思いをはせる	https://www.goo.ne.jp/green/column/cinranet-https_www.cinra.net_article_202408-umareteoid_imgwyk.html
96	excite.ニュース	24/8/14	東京国立博物館『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』レポ。縄文の土製品から、生と死に思いをはせる	https://www.excite.co.jp/news/article/Cinra_202408_umareteoid_imgwyk
97	dmenuニュース	24/8/14	東京国立博物館『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』レポ。縄文の土製品から、生と死に思いをはせる	https://topics.smt.docomo.ne.jp/amp/article/cinranet/entertainment/cinranet-https_www.cinra.net_article_202408-umareteoid_imgwyk
98	gooニュース	24/8/14	東京国立博物館『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』レポ。縄文の土製品から、生と死に思いをはせる	https://news.goo.ne.jp/article/cinranet/entertainment/cinranet-https_www.cinra.net_article_202408-umareteoid_imgwyk.html
99	mixiニュース	24/8/14	東京国立博物館『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』レポ。縄文の土製品から、生と死に思いをはせる	https://news.mixi.jp/view_news.pl?id=7980068&media_id=207
100	TOKYO ART BEAT	24/8/15	週末みたい展覧会5選。今週は内藤礼、田名網敬一、SIDE COREの個展など【8月第3週】	https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/recommended-exhibitions-for-weekend-20240815
101	Yahoo!ニュース	24/8/16	東京国立博物館『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』レポ。縄文の土製品から、生と死に思いをはせる	https://news.yahoo.co.jp/articles/eedf685e213c3948a77ab409d8bd273edc34a28
102	日曜美術館	24/8/25	美術家・内藤礼 地上に生きる祝福	https://www.nhk.jp/p/nichibits/3PGYQN55NP/episode/te/K979KMLK96/
103	MODERN LIVING	24/8/26	内藤礼の展覧会が銀座メゾンエルメス フォーラムにて今秋より開催 東京国立博物館で開催中の同名展覧会と一連の流れを持って構想されており、両会場を結ぶ無料シャトルバスも運行！	https://www.modernliving.jp/architecture-design/design/a61923368/rei-naito-240821/
104	TECTURE MAG	24/8/26	8/24 この週末に見たい！ 展覧会	https://mag.tecture.jp/event/20240824-116111/
105	東京新聞	24/8/29	【東京ウオッチ】1万年の時を超え、生まれる出会いー東京国立博物館で内藤礼さん展覧会 いまのTokyoをつかむイベント情報(31日～9月8日)	https://www.tokyo-np.co.jp/article/350746
106	山陰中央新報	24/8/29	【東京ウオッチ】1万年の時を超え、生まれる出会いー東京国立博物館で内藤礼さん展覧会 いまのTokyoをつかむイベント情報(31日～9月8日)	https://www.sanin-chuo.co.jp/articles/-/636526
107	下野新聞	24/8/29	【東京ウオッチ】1万年の時を超え、生まれる出会いー東京国立博物館で内藤礼さん展覧会 いまのTokyoをつかむイベント情報(31日～9月8日)	https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-/952848
108	福井新聞	24/8/29	【東京ウオッチ】1万年の時を超え、生まれる出会いー東京国立博物館で内藤礼さん展覧会 いまのTokyoをつかむイベント情報(31日～9月8日)	https://www.fukuishimbun.co.jp/articles/-/2118298
109	日本海新聞	24/8/29	【東京ウオッチ】1万年の時を超え、生まれる出会いー東京国立博物館で内藤礼さん展覧会 いまのTokyoをつかむイベント情報(31日～9月8日)	https://www.nnn.co.jp/articles/-/379103

No.	媒体名	掲載日	内容	URL
110	高知新聞	24/8/29	【東京ウオッチ】1万年の時を超え、生まれる出会いー東京国立博物館で内藤礼さん展覧会 いまのTokyoをつかむイベント情報(31日～9月8日)	https://www.kochinews.co.jp/article/detail/780501
111	北日本新聞	24/8/29	【東京ウオッチ】1万年の時を超え、生まれる出会いー東京国立博物館で内藤礼さん展覧会 いまのTokyoをつかむイベント情報(31日～9月8日)	https://webun.jp/articles/-/664061
112	埼玉新聞	24/8/29	【東京ウオッチ】1万年の時を超え、生まれる出会いー東京国立博物館で内藤礼さん展覧会 いまのTokyoをつかむイベント情報(31日～9月8日)	https://www.saitama-np.co.jp/articles/97667/postDetail
113	信濃毎日新聞	24/8/29	【東京ウオッチ】1万年の時を超え、生まれる出会いー東京国立博物館で内藤礼さん展覧会 いまのTokyoをつかむイベント情報(31日～9月8日)	https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2024082901272
114	沖縄タイムス	24/8/29	【東京ウオッチ】1万年の時を超え、生まれる出会いー東京国立博物館で内藤礼さん展覧会 いまのTokyoをつかむイベント情報(31日～9月8日)	https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/1424674
115	秋田魁新報	24/8/29	【東京ウオッチ】1万年の時を超え、生まれる出会いー東京国立博物館で内藤礼さん展覧会 いまのTokyoをつかむイベント情報(31日～9月8日)	https://www.sakigake.jp/news/article/20240829EN0003/
116	神戸新聞	24/8/29	【東京ウオッチ】1万年の時を超え、生まれる出会いー東京国立博物館で内藤礼さん展覧会 いまのTokyoをつかむイベント情報(31日～9月8日)	https://www.kobe-np.co.jp/news/zenkoku/entertainment/202408/0018060413.shtml
117	秋田魁新報	24/8/29	【東京ウオッチ】1万年の時を超え、生まれる出会いー東京国立博物館で内藤礼さん展覧会 いまのTokyoをつかむイベント情報(31日～9月8日)	https://www.sakigake.jp/news/photo/20240829EN0003/2/
118	GQ	24/9/4	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」展、銀座メゾンエルメスで開催	https://www.gqjapan.jp/article/20240904-rei-naito-hermes-news
119	SPUR.JP	24/9/4	内藤礼の個展が銀座メゾンエルメス フォーラムで開催。東京国立博物館での同名の展覧会と繋がる構成に注目	https://spur.hplus.jp/culture/news/2024-09-02-vDetcg/
120	VOGUE JAPAN	24/9/4	2024年下半年期 訪れるべき展覧会&アート展7選。晩夏の心地いい季節、刺激をもらいに美術館に出かけて	https://www.vogue.co.jp/article/fall-winter-2024-exhibitions
121	美術手帖	24/9/7	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」(銀座メゾンエルメス フォーラム)開幕レポート。感情や記憶、人の生を静かに見つめる	https://bijutsutecho.com/magazine/news/report/29485
122	Yahoo!ニュース	24/9/7	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」(銀座メゾンエルメス フォーラム)開幕レポート。感情や記憶、人の生を静かに見つめる	https://news.yahoo.co.jp/articles/d11935c50a9e0996c9c1ccf64ef45c414ba52c48
123	TECTURE MAG	24/9/8	銀座メゾンエルメス フォーラム「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」9/7開幕 東京国立博物館にて9/23まで開催される展覧会に呼応する構成	https://mag.texture.jp/event/20240908-117162/
124	TOKYO ART BEAT	24/9/9	「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」が銀座メゾンエルメス フォーラムで開催中。東博と連動した空間が織りなす「生の光景」に身を委ねる	https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/rei-naito-ginza-maison-hermes-news-202409
125	ensemble magazine	24/9/12	内にこだまする声に耳をかたむける 「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」	https://ensemble-magazine.com/2024/09/12/comeandlivegoandlive/
126	Precious.jp	24/9/13	【エルメス財団×東京国立博物館共同企画】美術家・内藤礼の作品にフォーカスした展覧会がスタート	https://precious.jp/articles/-/50055
127	北海道新聞	24/9/17	<展覧会>内藤礼 生まれておいで 生きておいで 生と死、自然の協和 体感	https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1063560/

No.	媒体名	掲載日	内容	URL
128	Casa BRUTUS	24/9/19	内藤礼が見出す「地上の生」が歴史と呼応する。〈銀座メゾンエルメス〉での展示もはじまりました。	https://casabrutus.com/categories/art/413266
129	Yahoo!ニュース	24/9/19	内藤礼が見出す「地上の生」が歴史と呼応する。〈銀座メゾンエルメス〉での展示もはじまりました。	https://news.yahoo.co.jp/articles/c4d10e3133d82b226ee957633e27eab830a2dbf8
130	ensemble magazine	24/9/19	内にこだまする声に耳をかたむける 東京国立博物館「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」	https://ensemble-magazine.com/2024/09/19/comeandlivegoandlive/
131	Casa BRUTUS	24/9/21	【9月21日～9月23日】三連休必見の“アート&デザイン”まとめ！	https://casabrutus.com/categories/art/423045
132	Yahoo!ニュース	24/9/21	【9月21日～9月23日】三連休必見の“アート&デザイン”まとめ！	https://news.yahoo.co.jp/articles/566f3f2fb86b6cbcfc31734ec82b95e930c26d5b
133	CONFORT	24/9/23	東京国立博物館「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」	https://comfortmag.net/250625reinaito-ex-tohaku/
134	美術手帖	24/9/23	三連休に見たい展覧会ベスト23。内藤礼からCLAMP、吟遊詩人、田中一村まで	https://bijutsutecho.com/magazine/news/exhibition/29550
135	Yahoo!ニュース	24/9/23	三連休に見たい展覧会ベスト23。内藤礼からCLAMP、吟遊詩人、田中一村まで	https://news.yahoo.co.jp/articles/18c90192cebdeb9e6c58f2222f14ff713fba9fa2
136	東大新聞オンライン	24/10/1	【火ようミュージアム】自然を感じる ―内藤礼 生まれておいで 生きておいで―	https://www.todaishimbun.org/kayoumuseum_20241001/
138	TOKYO ART BEAT	24/12/26	【2024年ベスト展覧会】1万件を超える展覧会からトップ30を発表！ ユーザー投票とTABサイト内の注目をもっとも集めた展覧会は？	https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/best-exhibition-202412
139	美術手帖	24/12/30	読者が選ぶ2024年のベスト展覧会。	https://bijutsutecho.com/magazine/insight/30060?page=4

実施運営担当一覧（順不同、敬称略）

【東京国立博物館】

担当研究員： 鬼頭智美（学芸企画部上席研究員）、品川欣也（学芸企画部海外展室長・考古専門主任研究員）、荻堂正博（学芸企画部企画課デザイン室研究員）

保 存： 和田浩（学芸研究部保存修復課長）、児島大輔（同課保存修復室長）、野中昭美（同室研究員）、宮田将寛（同室専門職員）、大森逸子（同課予測保存研究室事務補佐員）

展覧会運営連絡調整：原田あゆみ（学芸企画部企画課長）、佐藤寛介（学芸企画部企画課特別展室長）、鈴木優里（同室事務補佐員）

東博主催関連事業運営：金井裕子（学芸企画部博物館教育課教育講座室長）、横山梓（同室主任研究員）、山本桃子（同室アソシエイトフェロー）、東間礼華（同室事務補佐員）

広 報： 小島佳（学芸企画部広報室主任専門職員）、宇野裕喜（同）、織田有紀（同室専門職員）、宮尾美奈子（同室アソシエイトフェロー）

広 報 用 制 作 物 翻 訳：＜英訳＞ミウォシュ・ヴォズニ（学芸企画部企画課国際交流室専門職員）、足立奈緒子、サミュエル・タン＜中国語訳＞崔英花＜韓国語訳＞朴 祥炫（以上4名同室アソシエイトフェロー）

会 場 運 営： 竹之内勝典（総務部総務課長）、富田雅行（総務部総務課室長）、築島愛美（総務部総務課来館者支援担当）、尾植ひかり（同課総務担当）
フクシ・エンタープライズ（主担当 三崎龍馬）

経 理： 西尾泰昭（総務部経理課長）、藤井義範（総務部経理課室長）、土井悠登（総務部経理課契約担当）、関尾優里（同）、佐々木望（同経理担当）

施 設 整 備： 尾崎史敬（総務部環境整備課室長）、山宮康平（総務部環境整備課係長）、山形 恭佑（同課電気担当）、山木和寿（同課機械担当）

会 場 清 掃： 東京ビル整美株式会社

広報用撮影作品準備：菊池望

カタログ用会場撮影協力：小島佳（学芸企画部広報室主任専門職員）、君波妙子（学芸企画部企画課国際交流室専門職員）、天野史郎（学芸企画部広報室員）、小松亜希子、中嶋海文（以上2名同室アソシエイトフェロー）、足立奈緒子（学芸企画部国際交流室アソシエイトフェロー）

肩書きは2025年3月現在

エルメス財団主催関連事業

企 画：説田礼子（エルメス財団キュレーター）

運営・制作：有川 愛彩、田辺裕子

広 報：青木真優

アシスタント：秋本真弥子（以上4名エルメスジャパン）

関連事業

トークイベント

日 時：2024年7月15日（月休） 14時～15時30分

場 所：東京国立博物館平成館大講堂

登壇者：内藤礼（美術家）、星野太（東京大学大学院総合文化研究科准教授）

定 員：200名（事前申込制、先着順）

星野氏を聞き手に迎え、内藤氏本人が今回の展覧会における制作と作品を中心に語った。星野氏は2020年金沢21世紀美術館で開催された「内藤礼 うつしあう創造」展の頃から内藤氏と交流があり、なごやかな雰囲気の中で進行した。「生の往還」をテーマとした内藤氏の制作について、東博が収蔵する考古遺物との出会いと内藤氏が本展のために選択した縄文時代の出土品について、また内藤氏が「母体」とした縄文時代の「土版」からはじまり館内の3会場を巡って最後は《死者のための枕》に戻る展覧会構成、さらに内藤氏のつくる美術展という「場」や鑑賞体験についての内藤氏および星野氏の想いなど、多岐にわたる話題について、作家自身の考え、想いをきく貴重な機会となった。



受付の様子



会場内の様子

月例講演会

「『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』との出会い」

日 時：2024年8月17日（土）13時30分～15時00分

会 場：東京国立博物館平成館大講堂

登壇者：三本松倫代（神奈川県立近代美術館主任学芸員）、品川欣也（東京国立博物館海外展室長）

進 行：鬼頭智美（東京国立博物館学芸企画部上席研究員）

定 員：380名（事前申込制、先着順）



会場風景



品川室長



三本松主任学芸員



鼎談（右から三本松、品川、鬼頭）

エルメス財団主催ワークショップ

「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」展 東京国立博物館研究員とのオープンダイアログ

2024年8月19日(月) 10時30分～14時30分 本展会場および黒田記念館セミナー室

主催：エルメス財団

共催：東京国立博物館



第1会場内



第2会場入口前



黒田記念館でのディスカッション

月例講演会記録

鬼頭：今日は月例講演会へのご参加ありがとうございます。本展担当研究員の鬼頭です。

当館では通常江戸時代以前の作品を扱った展覧会を開催していますが、このたびは珍しく現代美術家による空間作品をお見せする展覧会を開催しています。館内の3か所を会場とし、第1会場が平成館、第2会場が本館特別5室、第3会場が本館1階ラウンジとなっています。第1、第2、第3の順にご覧いただき、その後第2、第1と戻っていただくのが順路になります。最後は平成館企画展示室のケース内の向かって一番左奥にある《死者のための枕》という作品で終了となります。このようにあちこちの会場を順に廻るのは、第1、第2、第3と廻った後、上野を飛び出して、連携企画へと続き、その後第3、第2、第1と戻る構想となっているからです。第2会場に入って左の壁に並んだ絵画の連作の続きが、連携企画の銀座メゾンエルメス フォーラムへと続き、その続きが本館向かって右側の壁へと続きます。当館でこれらの絵画は本館5室の両側の壁面に、描いた順に入口から奥へと並べてあります。第1会場を入ると正面に当館の所蔵品「土版」が置かれています。内藤さんは、土版から「生まれておいで」というメッセージが発せられると感じたと言います。今回内藤さんはケースの中を「生の外」、ケースの外を「生の内」、としています。第2会場は当館の所蔵する「足形付土製品」などが入ったケースが床に置かれています。この部屋は「地上の生の光景」として、縄文時代に生きたものたちの生の光景、あるいは現在生きている私たちの生の光景が広がります。第3会場ではガラス瓶を重ねて上に置いた瓶には水が一杯満ちている。こちらは生きている生の光景をあらわし、それを支えているのが下に置いた瓶で、これまで生きていたものあるいはこれから生まれてくるものに、現在生きているものが支えられている状態、生と死の繰り返し、生の往還を表す作品です。つまり、第1会場で生の外から生まれ、第2会場へと続き、その生は循環して上野から銀座へ飛び出し、その後、生の後半を過ぎて生の外へと還る、そうした命の循環を体験する大きな円環を廻るような作品です。

その中には当館の収蔵品から内藤さんが選んだ縄文時代の考古遺物が含まれます。今日はまずそれら当館収蔵の考古遺物について、当館学芸企画部海外展室長で考古学が専門の品川主任研究員が「内藤礼と東博考古コレクションの出会い」と題して、これらが選ばれた経緯や、考古学的にはどのようなものであるか、などをお話します。その後休憩を挟んで、神奈川県立近代美術館主任学芸員の三本松倫代さんに講演いただきます。三本松さんは、長年内藤さんの作品を見てこられ、ご自身でも一昨年自館コレクション展として、内藤礼展を開催されました。今日は「内藤礼が送り出すもの」と題し、作家とこれまでの作品、そして今回の出品作についてお話しいただきます。その後短い時間ですが、私を含め3人で今回の展覧会についての鼎談を行いたいと思います。では、品川さんよろしくお願いいたします。

品川欣也「内藤礼と東博考古コレクションの出会い」

私の方からは、「内藤礼と東博考古コレクションの出会い」ということでお話しいたします。

まず、東博考古コレクションとは、次に内藤礼による考古遺物の選定と選定された考古遺物を紹介し、展示室内の解説が不足している部分を補います。そして最後に縄文造形の特徴、ということで話を進めます。

東博は今年で152歳になります。ただ、その収集の歴史は開館前にさかのぼります。およそ明治時代のはじまりと同時期とお考えいただければ大丈夫です。東博にやってきてから100歳を超えている収蔵品もあります。東博のコレクションは今全体で12万件ほどありますが、考古コレクションはその4分の1を占める3万件ほどです。かなり大きな部分を占めています。その中で今回展示されているのはたった7件。このたった7件でも考古遺物そのものの魅力、そして内藤礼の魅力も語ってくれていると思います。

ではこれらがどのように選ばれたのか。おそらく皆さん気になっているところだと思います。今回の内藤展に出品されているものはすべて内藤さんが選びました。事前にこれがお勧めだというような話しは当方から一切していません。皆さん一般の方と同様に、刊行されている当館の図版目録や展覧会図録、あるいはデータベースなどを参照して選ばれました。ですから、東博の収蔵品ですが、あくまで内藤礼の視点から選んでいます。選んだものについて、私がこういうものですよ、という説明をして、準備が少しずつ進んでいきました。たった7件ですが、一度に作品選定がなされたわけではありません。最初に①「土版」が決まり、次に「足形付土製品」、そのあと③動物形土製品・獣骨、④土製丸玉と選定が進んでいきました。

では、内藤さんが選んだ順に考古学的な解説をします。先ほども申し上げた通り、今回展示作品の近くに作品の情報や解説はありません。これからお話しする解説をきいていただき、この展覧会を理解する助けにしていいただければと思います。

まず「土版」について。土版とは、土偶と同じように、安産や子孫繁栄、豊かな自然の恵みを願って作られた縄文時代の祈りの道具です。本来は顔や乳房が存在するのですが、内藤さんが選んだのはこの、肝心の顔や乳房が欠けた土版です。はじめこれを示された時、なぜ縄文、しかもこの顔などが欠けたものを選んだのかと疑問に思いました。収蔵するものには、顔があつて乳房も付いたもつといいものもある、と言いたかったのですが、内藤さんの作品を見に来る方にとってはその展示空間の意図を考えるきっかけになるのだらうと思い、(選定には)口出ししないようにしました。そして、内藤さんから選んだものについてはあまり理由を聞かないことし、内藤さんの視座から最後まで選んでもらうことにしました。次に内藤さんが選んだのは「足形付土製品」と呼ばれるものです。縄文時代にはこのような幼児の手のひらや足の裏を押し当ててその形を写し取った土製品が、いくつか出土しています。子どもの手形や足形のほうが注目されがちですが、その裏側を見ると必ず大人の痕跡があります。東博のものはあまりはっきりと見えていませんが、他の遺跡から見つかったものをみると、太い長い指の跡がついている。そして、これらはお墓から見つかることが多いので、亡くなった子どもの形見として親が持っていて、その親が亡くなったときに墓に副葬されたものと考古学者は考えています。ですから、親の愛情を象徴する縄文時代の造形としてしばしば紹介されるものです。こちらに類例を示していますが、当館のものもまた同様であると考えています。このあたりで「遮光器土偶」や「火焰型土器」などいわゆる縄文の造形としてよく知られているものを選んでいくわけではないことに気づきました。私自身の解釈ですが、内藤さん

は時代に関係なく繰り返される生に対する人々の想い、それを形にしたものを選んでいただいているのだと思います。

その後、動物形土製品や獣骨が選ばれました。縄文時代の人々は自然の中で暮らしていたので、当然ながら身のまわりに動物がいました。縄文時代には動物形土製品はよくつくられますが、その半分を猪形土製品が占めます。そのほかには、貝、熊、鳥形土製品が続きます。儀礼のために作られたと考えられますが、それが雄か雌か、あるいは成獣か幼獣かも検討する要素となります。この猪形土製品を解釈する参考例としてこれら2例を挙げます。左が「猪頭装飾付石製品」、男性器を模した石棒の頭に猪の頭がついているものです。安産や子孫繁栄の儀礼の道具として作られたものです。右は青森県弘前市出土のものです。牙があるので雄の猪です。背中のかたがみとしっぽにも注目してください。今回選ばれた猪形土製品にもかたがみの痕跡としっぽのあとがみられます。おそらく頑丈な体をもつ猪の生命力に憧れて作られたと解釈できます。生に対する強い憧れから作られたのでしょう。なぜ雄か雌か、大人か子どもかを気にするかというと、一方で雌をあらわしたものもあるからです。おなかの部分を下から写した図がこちらですが、乳房が4つあらわされています。通常猪は8つ乳房があり8匹以上子どもを産むことから、多産の象徴でもあります。ですからこういう造形が出てくれば、安産や子孫繁栄、豊かな恵みの希求したものと考えられるわけです。このようにして動物形土製品を見比べることで、考古学者はそれぞれの土製品の役割を解釈しています。これを内藤さんがどこまで理解していたかはわかりませんが、ときどきこうしたことを見透かされているのではないかと感じました。もしかしたら物の作り手という作家の視点からこれらの動物形土製品の製作意図を感じとり選ばれたのではと思いました。

そして、「猪形土製品」とともに第2会場で展示されているのが「猿形土製品」です。鼻の下が長く面長の「猿顔」そして尻には尻だこがつくられています。縄文人が動物をよく観察していることが分かるのは、しっぽを短く表現していることです。これは寒い地域に暮らすニホンザルの特徴です。他の猿形土製品と比べてみましょう。左側が十腰内遺跡の猿形土製品で、極めて代表的な例です。ただ、見逃しがちなのが赤丸で示した部分、乳房です。猿の乳房は普段は見えにくく、授乳の時にだけ目立つようになります。したがってこのサルは授乳をしている時期の猿の姿を表していることになります。よって、この猿形土製品の役割は、子の健やかな成長、転じて子孫繁栄を願うために作られたとも考えられるわけです。その隣に示したのが、坐産をしている姿です。これらのことから猿形土製品は子孫繁栄を願ったものと考えられるのです。この猿形土製品は口をすぼめています。当館のものと同じ表現です。このような共通性から今回展示している当館のものも、子孫繁栄を願ったものと考えてよいと思います。土版、足形付土製品、動物形土製品とみてくると、内藤さんは、生きることに関わる考古遺物を選んでいただいているのではないかと、というように改めて思ったのです。

内藤さんが獣骨の欠片を出品作品に選んだときには参りました。内藤さんは、どうして獣骨の欠片を選んだのでしょうか。東博によく来られている方も獣骨の欠片が展示しているところはみたことがないと思います。この欠片がどの動物のどの部分か、パッと見ただけではわからないと思いますので説明します。今回の展示では猪の肩甲骨と、鹿の寛骨、脛骨が展示されています。これらは縄文人の食べ残しです。縄文人は捕まえた動物を余すところなく利用しますが、利用する部位がほぼ決まっています。鹿なら角、

中足骨、猪はもっぱら牙を道具に使います。利用する部位から外れている骨であること、そして欠片の割れ口を見るとねじれて割れているので、おそらく骨髓を食べるために叩き割ったものと考えられます。これらのことから、縄文人の食べ残しと判断してよいと思いました。こちらは縄文造形として作られる土製品の種類と狩猟の対象になった動物の比率を表した表です。狩猟対象となっているのは、猪と鹿だけで半数を占めます。その一方で土製品として作られるのは猪がほとんどで、鹿は作られていません。生へのあこがれとして作る動物と、生きていくために食料として必要な動物とを縄文人はきちんと選り分けているのです。さっき見透かされているな、という話しをしましたが、内藤さんがこの表の要点を踏まえた作品選定をしていたので、そう思ったのです。だからこそ、今回の展示では生へのあこがれを表すものだけでなく、生きていくために必要なものと一緒に同じに空間の中にあるということが改めて大切なのだと考えさせられました。

そして最後に選ばれたのがこの「土製丸玉」です。これはいまでも子どもが泥をこねて作れそうな簡素な造形ですね。こういう用途が限られて必要最低限な表現で作られたものは、形の特徴から時代を判別することは極めて困難です。採集された場所や周辺から出土する他の考古遺物の時期からネックレスの部材だろうと判断しました。今回展示に出品された考古遺物は一貫して作りが極めて低調なもの選ばれています。

さて、ここまで作品解説をしてきまして、ここでもう一度縄文造形についてお話しします。縄文時代の造形は、日常生活の中にある材料で日々の暮らしのために作ったものです。無駄なものはありません。私は数年前に、縄文造形はすごい、という展覧会をしたのですが、実は縄文時代は強い規制があつて、個人が勝手なものを作れない時代なのです。例えば土器は時期や地域ごとの特徴があります。ですから、火焰型土器のような土器がたくさんあるのです。そのため考古学者は火焰型土器を縄文時代中期に新潟県周辺で作られたものと判断できるのです。そうしたルールは土器の文様や形、材料などについても、強く働いています。このようななかで個人の個性や特徴が現れるのはとても稀です。そのため縄文時代には作家や職人が存在しないのです。私自身はこのような性格をもつ縄文造形と内藤さんの作品の共通点を考えながら展示にたずさわっていました。

私は東博で展示内容を作る仕事にもたずさわっています。本館の「日本美術の流れ」や平成館の考古展示室を担当しています。本館の「日本美術の流れ」は名前の通り日本美術史の視点から、平成館の考古展示室は日本史の視点から展示を構成しています。今回の内藤展はこれらとは全く違う視点から考古遺物が展示されています。しかも、内藤さんの作品と一緒に。過去と現在、ということからすると考古遺物には使われた時代があります。今回でいうと縄文時代にあたりますが、そこで一旦その役割を終えています。その後再び発掘された考古遺物は博物館で二度目の人生を送っているようなものとも言えます。考古学者然とした今となつては、自分の研究に役立つ考古遺物が発掘で見つかつてくれるといいなと思ってしまうがちですが、学生の頃にはそのようなことは全く考えてもいませんでした。というのは、目の前で発掘して見つかったもの全てがキラキラして自分の前に生まれてきたように見えていたからです。今回、内藤展にたずさわる中で同じような新鮮な感覚を再び覚えました。

みなさんが本展をどうみるか、今回展示されている考古遺物を通して展覧会をより深く理解し、楽しん

でいただければ、一担当者として大変嬉しく思います。また東博の他の展示室とも見比べていただくと、内藤さんの視座がよりはっきりするのではないかと考えています。

(休憩)

三本松倫代「内藤礼が送り出すもの」

こんにちは。暑い中お越しいただきありがとうございます。神奈川県立近代美術館主任学芸員の三本松です。

レジュメの説明をすると、1-2-3の順に話が進むというよりは、2, 3の視点を持ちつつ、内藤さんのこれまでの仕事や今回の展示の持つ意味をお話します。レジュメのキーワードを眺めながら画像を見ていただければと思います。また、参考文献を先にご紹介しますと、レジュメに4点記載しました。2009年の『内藤礼 母型』は、内藤さんご自身が大学で講義し、自分の学生時代から2009年までの仕事を語っています。作家の言葉としては一番わかりやすくまとまっていると思います。2015年の『祝福』は作品集で、最初期から2015年までの代表作を写真と解説で紹介しています。2022年の『空を見てよかった』は、内藤さんは詩や散文も書かれていて、この本が出た2022年までの彼女の文章がまとめられており、とりわけ2018年から19年のテキストが書き下ろしで収められています。その次に記載したURLの一つ目は昨年葉山館で行った展覧会の際に、図録をつくらなかったためウェブでPDF公開している資料です。今回東博にも出品されている作品の解説があります。二つ目は先週TOKYO ART BEATで内藤さんのインタビューが公開され、今回の東博の展覧会に関して作家の最新の言葉が掲載されているものです。

レジュメの1は略歴です。内藤さんは1961年広島に生まれ、美術大学の視覚伝達デザイン学科でグラフィックデザインを専攻しました。デザイン事務所でアルバイトをした経験もあるそうです。卒業制作として発表した《Apocalypse palace》が評価され、小池一子さんが主宰されていた佐賀町エキジビットスペースという場所で最初の個展を開き、その作品が1997年ヴェネチア・ビエンナーレの日本館で《地上にひとつの場所を》として発表されました。同じ年に、ドイツ・フランクフルトの修道院で《Being Called》という重要な作品を発表するなど、この頃、最初の国際的な展開がありました。その後、香川県直島のベネッセアートサイトでの常設設置「きんざ」があり、諸々の展開後、2009年に私の勤務先である神奈川県立近代美術館の鎌倉館で個展を行います。

これと同時期に計画が進んでいた香川県の豊島美術館での常設設置《母型》が2010年に公開され、その後に関東圏と金沢で大きな個展が三つ続いたので、この辺りで内藤さんの作品を知ったという若い方も多いのではないのでしょうか。金沢の個展はCOVID-19のパンデミックにあたって会期短縮開催となり、その後2023年にミュンヘンでの「Breath」展がありました。それでは、今回の展示に至る変遷を画像で見たいと思います。

レジュメの「依代」という言葉は、2022年の展示解説を書く際に「内藤さんの仕事は、何か一つの言葉とか形に、生命というか、靈魂というか、スピリットを宿して、それが異なる生命を持って展開して

いくようなものですね」と話して依代という語を選んだ時に「そうですね」と言ってくれたことから来ており、今回の東博のカタログの解説でも使っています。内藤さんの略歴や作品リストを見ると同じタイトルがたくさん使われていて、どれがいつの作品か混乱してくることが多いかと思い、タイトルや素材をまとめて分類してみたのがレジュメの2番です。内藤さんのチェックを受けているわけではないので、学芸員の拙い分析としてご覧ください。

初期の《Apocalypse palace》では白い小部屋を作り、台の上に白い布を敷いて、その上や周囲に針金で作った小さなものとかビーズ、リボンといったものを配置し、俯瞰する光景を作る。すなわち、地上に自分のひとつの場所を作っていく作品を最初からなされています。佐賀町エキジビットスペースでの《地上にひとつの場所を》ではテント状の空間を作り、入口から1人だけが中に入っていくと、先ほどのような地上の生の光景が展開している。その中には、草花の種とか花びらとかオーガンジーとか非常に壊れやすい繊細なものたちが配置されている。

写真に写っているのは作家自身ですが、作家がその作品の生まれる瞬間に立ち会うときは1人なので、鑑賞する人も1人で対峙してほしいとの意図があって、この頃は便宜上一人1回10分といった制限を設けて、作家自身が定期的に布のしわを直したり、人が動いて倒れたモノを直したりする、かなり繊細な展示をされています。作家と同じように作品が生まれる場に立ち会ってほしいということです。

ヴェネチアと同じ年にフランクフルトのカルメル会修道院で展示された作品は、修道院の壁に描かれた殉教者304人を数え出し、この1人1人に安らぎを与えるために《死者のための枕》を作って壁に向けて配置した作品でした。今回の特別5室にある《杖》も置かれていました。このときも一度に1人しか室内に入れないけれど、丸い座面が七つ置かれていて、殉教聖人304人の魂もここにあり、見ている私がい、他の人もいるというような、一と個、個と多、そういった関係性がすでに作品の中に作られていると言えます。

直島に作られた2001年の《このことを》は、直島のメインストリート、といっても本当に小さな通り沿いの古民家を改修した作品です。もともとの古民家の床を剥がして土の地面をむき出しにし、そこに作品を設置しました。床下だけを剥がしたので外の光や風、虫が入ってきたり、あるいは外を通るバイクとか人の声、鳥の声が聞こえてくる作品です。梁から吊下げたり、地面の上にビーズや大理石が設置され、見る人は空間の奥には入れずに結界の手前から見るようになっています。今回の特別5室で床のカーペットを剥がし、鎧戸を開け、壁の仮設壁を剥がしたのとまさに同じことをしているわけです。与えられた場に対して、オリジナルの空間をあらわにして、そこに介入していく。

その後さらに、吹きこむ風とか入ってくる虫も受け入れたように、作品の場所が閉ざされた空間からだんだん開かれていきます。2005年に大山崎山荘美術館、翌年の愛知県佐久島で発表した「返礼」という個展にもあらわれていて、地上に生を与えられたことへのお礼として、作品を生の外あるいは生の外にある自然に対して返すのだというようなステートメントが当時書かれています。このとき、海岸の岩場に懸樋状の小さな水路を作って、柄杓で海水を注ぎ入れ、樋の端から水面に息を吹きかけると波紋が海のほうに流れていくという、自然に対して息（生命）を吹きかけて返礼する作品が生まれている。佐久島では、弁天サロンという会場の庭に糸を張り、貝紫で染めたりボンを吊るして、それが自然の中で風に

揺れている作品も発表されました。海岸の作品とあわせ、佐久島の展示が、全くの屋外で発表された最初になります。

この時に島の弥生時代の土器とか石器と一緒に内藤作品を屋内に展示しており、最初の屋外展示でもあり、考古遺物とのコラボレーションの機会でもありました。貝紫という自然の素材から取った染料を使うことで、自然から与えられたものを形にし、それが自然の風とか光の力でそよぐ。そよぐ線の美しさは、作家が設定するものではなく、生まれてくる曲線であり、動きであり、光です。作らない・作れない美を追求されていた時期と思います。

この頃、鎌倉での展示計画が始まりました。きっかけは、2006年に鎌倉館での畠山直哉さんの個展を担当した際に、畠山さんのスタジオで佐久島の展示写真を受け取りに来た内藤さんに初めてお会いしたことです。神奈川県立近代美術館も葉山の海辺にあるのですといった話から、一緒に畠山展を担当していた水沢勉さんが横浜トリエンナーレのディレクターとして三溪園で内藤作品を展示したこともあって、当館とのお付き合いが始まったのです。2009年の鎌倉展のポスターとチラシに映っているのは内藤さんご本人です。これが個展の会場で複数の空間に展示した最初の機会と思います。

現在は閉館し別の組織になっている建物なのでちょっと脱線しますと、鎌倉館は鶴岡八幡宮の境内にあります。隣になぜ西洋美術館の写真を持ってきたかという、鎌倉館を設計した坂倉準三は、戦前にル・コルビュジェの元で学んだ二人目の日本人建築家でした。一人目が東京文化会館を設計した前川國男です。これは1959年にル・コルビュジェが西洋美術館建設のため来日したときに、坂倉さんが鎌倉館を案内しているときの写真です。ル・コルビュジェが考えていた無限発展美術館という、作品が増えるにつれて建物がかたつむりのように増築していくのだという考え方を、坂倉は師より先に鎌倉で実現したのです。1951年に本館を建て、1966年に新館を建てました。閉館後、新館は取り壊して本館だけが残し、西洋美術館本館とともに国の重要文化財になっています。空が見える中庭があり、中庭からテラスの向こうに池が見えて、室内と室外が入れ子状に交錯した建築でした。内藤さんは2階建ての本館の内外に作品を設置したのです。

第1展示室では、横から人が入れる作り付けのガラスケース内が地上の生の空間であり、通常の展示室内が生の外——死者や未だ生まれていない者の空間であるとして、人々がこの地上の生へと生まれ出ていく、生まれて出ていった人の様子を、死者＝生の外の存在としての他の鑑賞者が見ている、そしてともにケース内の地上の生の光景を見ている、という空間が作られました。

今回の東博との共通項として、ガラスによって生の外側と内側が閉ざされつつ可視化され、一方から他方へ送り・送られるという関係性が生まれている。また、既成品のプリント布とかりボンを置いて、地上の生の空間に「飾り付け」がされる。あるいは、鎌倉のときはパステルピンクなどの色付きで、この後乳白色になりますが、地上の生を眺めている我々の頭上にバルーンが揺れている。見下ろしている私達にもさらに上方から慈愛とか慈悲といった眼差しが注がれる上下関係、そして「こちら」と「向こう」という水平の関係が造形化していました。

東博の空間は鎌倉と逆転していて、地上の生の空間がガラスケースの外側にあり、生の外の空間がケースの内側にある。ケースの中には縄文時代の土盤があり、内藤さんの造形物があり、さまざまな光景

が作られてあって、「生の外」からの光によって地上の生は照らされている。さらに言うと、展示室に入ると最初は逆光で中が明るいとはかわからない。ガラスの外側には貝塚遺跡のある大森の庭園や上野公園から内藤さんが収集した木の枝とか小石が置かれていて、縄文時代と現代を小石や木の枝によって結び付けながら空間が生まれている。最初は見えてこなかった色彩が、目が慣れてくるにつれて見えてくるといったように、地上の生にはカラフルな飾り付けのある空間構造ができている。内藤さんが作られるものはずっと変わらない部分があって、変わらないけれども異なる素材の使用を経て違う展開をしてくる、あるいは一回りして同じ場に帰ってくる、そういう構造があると思います。今回の展示が感動的なのは、過去にも見たポンポンが初めて見るカラフルさをまとっているなど、再会の喜びと初めて出会う喜びが両方ある展示だからという気がします。

企画展示室と特別5室では入口があえて狭くなっていますが、このような建築的構造物は2010年開館の《母型》にも見られます。この作品の場である豊島美術館は、西沢立衛さんが設計した、水のしずくのような形状の建物です。天井部に二つの穴が開いていて、自然光だけに照らされて、雨が降れば水が落ちてくるし雪も落ちてくる、あるいは外の鳥の声、風が入ってくるという作品です。

毎朝、床面の穴から微細な水のしずくがコロコロと湧き出して、床の微妙な傾斜によって1日かけて二つの開口部の下に集まり、夕方には大きな泉ができる。作品の出現には一対一での対峙を要求し、作家と同じように出会うには1人でしか体験できません、と言っていた内藤さんが、2000年代後半からは他の人がいて何かを見ている光景自体を作品として受け入れるようになる。人々が一緒にいる、人々が何かを一緒に見ている、それぞれがささやきあう言葉が、建物の構造もあって、近くに声として聞こえてくる。それが非常にいいものである、と。

この考えが今回の展示にも踏襲されていて、ガラスのビーズを見上げて光が反射する位置を探しながら歩いている人がいたり、座っている人がいる状況を受け入れている。人気の展覧会などでは他の鑑賞者は混雑の元であり、ともすると邪魔な存在になってしまうけれど、そうではなくて、同時に見る、その見ている人々も作品の一部で、自分もその一部であるといった場が発生していると思います。

2011年の東日本大震災を機に、内藤さんは《ひと》という作品を作りました。小さなバルサ材を自分で削り瞳だけを描き入れて、希望を見つめる人として初めて人形（ひとがた）の“彫刻”を作ったのです。2013年には広島の前原爆で被爆したガラス瓶と一緒に《ひと》を展示しました。《タマ／アニマ（わたしに息を吹きかけてください）》という作品でも、大きな空間に置かれた沢山の《ひと》が自然光の下で何かが生まれるところ、一方向を見ているという表現が展開されています。《ひと》そのものは東博では展示されていませんが、選出された縄文の造形にも通底しているように思います。

おそらく豊島美術館で大きな建造物を西沢さんと一緒に作った経験の前から、与えられた場に対する建築的な働きかけが内藤さんは非常に優れている。金沢の個展でも、もともとの展示室に対して細い通路を作り、そこから空間に入らせる。東博でも、あえて細く暗い、内藤さん曰く「ちょっと不安になるような」通路が第1展示室、第2展示室の各2ヶ所に作られていて、あの細い空間を通って室内に入って光を受けながら、ベンチに座ってみる。《死者のための枕》の正面に座ると、真横から見た枕が目に入る。立っているときの見下ろす構造ではなくて、横からの視線の位置に視線を誘導する装置としてベンチが

ある。

東博の《color beginning》では、初めて色のあるポンポンが生まれました。2014年、先ほどの《ひと》に白い毛糸帽をかぶせ、この《ひと》が2階から見下ろしている中庭のペリカンの彫刻にも毛糸の帽子をかぶせた東京都庭園美術館での展示で、帽子についていたのが最初のポンポンです。当時は《帽子》というタイトルで、水戸の個展では《ポンポン》というタイトルでした。

レジュメの2-2に書きましたが、最初は無題か“そのもの”としてのタイトルをつけ、その後で、おそらくは次の展示の機会にこれは何だろうと考える。「これも広く考えれば“color beginning”だろう」と展開していくのが内藤さんの作品の作り方ではないかなと思っています。依代としての言葉、依代としての形ということでしょうか。

《color beginning》という作品の最初はキャンバスの平面作品で、色があるかないかわからないような淡い色の作品でした。その後、試し描きのため絵具を含ませた筆を紙に置いた、その多色の紙が彼女の中で印象に残っていて、これをcolor beginning、光が生まれる、色が生まれる瞬間として作品化し、金沢での個展の後に紙の作品のシリーズとして展開します。

ドイツのピナコテーク・デア・モデルネでの個展「Breath」で発表した〈color beginning〉は、制作日だけが記録された、今回の東博の展示作品と同じシリーズです。最初は色だけを追及し、何かの意思をもったら筆を動かすのをやめていた作品だったといいます。けれど、どうしても色を置いていくと風景に見えてしまう。青を置けば空に見えるし、緑を置けば野山に見える。人間はそういうものだ作家本人が自分に許可して描いている。風景画を描こうとはじめたわけではないが、結果としてそう見えてきたものとして描いた2点組の作品が今回の空間でも展示されています。出品リストに制作年月日が記載されていて、それを追っていくと東博からメゾン・エルメスのフォーラムでの展示につながり、ふたたび時系列が東博に戻るといった、時空間をまたいだ展示がなされています。

最後に、今回の展覧会に関して「おいで」という言葉の説明をしたいと思います。「おいで」が最初に作品化したのは2003年に雑誌『en taxi』に発表された詩でした。「なににもならなくていいよ。おいで。」という一節から始まるやや長文の詩です。『空を見てよかった』に再録されています。同年、岡山での「LOVE PLANET—愛の惑星」展で、直径7.8センチの円い紙に裏側から赤い鏡文字でこの一節が印刷された作品《恩寵》が生まれ、いくつかの展示を経て、2009年の鎌倉で印刷された言葉が「おいで」の3文字となります。

鎌倉の展示では、自然光だけが照らす空間に敷き詰めた草模様の布の、布と床（内と外、あるいは生の外としての空間と人がいる空間）の境界に置かれたこの紙作品は、1枚ずつ持ちかえってよい「ギブアウェイ（give away）」形式の作品でした。人がこの世に生まれるときに、乳児が両足を揃えて地上に着地する、人はみなこの地上に直径7.8センチだけの円形の空間を与えられ、それを生涯持ち続ける孤独のもとにある、という内藤さんの考え方がこの形にあらわされています。

東博の展示では、鎌倉で使われていた布が、金沢の時と同様に円形ではなく7.8センチ四方の方形に切り抜かれ、特別5室の壁では、緑の草原が花が咲いたので赤くなった、というイメージで使われています。水平に置かれていたものが垂直になり、息を吹きかけると一瞬浮かび上がって動きが生まれるという

作品です。一つ一つの作品がどれも繋がっていくというか、連続しているのですね。

この世からあの世へ、地上の生から向こうへ、あるいは自然から人間の世界に送られるものとしての要素が、一つ一つに込められている。同じことがガラス瓶の作品にも見られます。東博のラウンジにも置かれた作品ですが、2009年の鎌倉では池に面したテラスの手すりに水を湛えた瓶が置かれ、人の世界の外（の自然）に捧げられていたものが、2022年に初めて上下重ね合わせの構造を取りました。この頃内藤さんは母親や今回展示されている《とんの毛》の愛猫とんちゃん、20歳で亡くなった猫を見送った経験から、地上の生は死者や前の世代の人達の生、自分の生を次の世代に渡してゆく「巡る生」の上にあるということを考え、両方の空間を可視化しています。このときに、「生きて、それから逝こうと思う」。自分の生を全うし、次の世代に自分の受けたものを伝えていこうというステートメントが書かれました。2022年の葉山でも今回の東博でも、下から上へ、死者から生者へという生の転換があり、地上の生（人間の生）から生の外としての屋外（自然）へと、葉山では海、東博では庭の池に対して水を介して繋がるという展示になっています。

瓶が置かれたラウンジの空間には丸い鏡が二つ向かい合わせに2セット置かれていて、企画展示室にもガラスを挟んで八角形の鏡が設置されている。重ね合わせて写し鏡になっているけれどその内側は見えない。ラウンジの写し鏡の中にも無限に空間が延長されているのですが、我々が覗き込むと自分の目によって遮蔽されて無限空間は見えない。見えないけれども、「見えないものがあること」を可視化しているのが、内藤さんの最近の作品だと思います。もう一度会場で、写し合い／映し合い、水平と垂直、上と下、ガラスを使って見える形で内側のものを守り、その上に飾り付けをしながら、さらにそれを見下ろしている我々の頭上にガラスと光があって、恩寵や慈愛の視線を投げているという構造を意識しつつ、この後9月のメゾン・エルメスでの展示と東博とを往来し、あるいはラウンジと特別企画室とを移動する中で、記憶のなかの他所の空間と今この差異、あるいは夏と冬の時間と光の差、みたいなことを見て、体験していかれるとよいのではないかと思います。

鼎談

（鬼 頭）皆さんいかがでしたでしょうか。先ほど品川が、今回の展覧会は展示室内に解説がないという話もしましたが、作品に対してひとりひとりが自分として向き合って自由に見ていただくということ、作品鑑賞はもともとそういうもので、当館は、普段見どころがここだ、などと言いがちですけど、博物館の勧めに従いみどころを探すのではなく、まずは個々が場に対するということだと思い、（解説を）つけておりません。しかし作家の意図はありまして、それは今三本松さんからのお話しの中で十分聞いていただけたかと思いますし、一方当館の作品にもそれぞれ性質やそもその意味はあるので、その辺は展覧会とは別の機会でお話しできたらと思い、月例講演会という形にしました。

今、お互いそれぞれに考古遺物のお話しと内藤作品のお話しをしていただきましたが、どうでしょう、お互いに聞いてみたいことがあればぜひ共有していただければと思います。

(品 川) 最初の方で僕がまず「なぜ縄文？」っていうような話をしましたが、三本松さんからこれって「縄文しぼり」ってあったんですかっていう、さっき3人で雑談しているときそういう質問があったんですけども、実はないんです。結果的に縄文になったわけで、実はその他の分野の作品も、もちろん当館としては展示できるよう準備をしていたつもりですが、結果的に縄文になったというわけです。僕がもっぱら縄文とか弥生を専門としているのでたまたま僕がこの場に座っているわけですが、もし違うものを内藤さんが選んでいたら、僕はここにはいない。この展覧会に携わっている方、ずっと内藤さんの展覧会を見てきた三本松さんも、質問していろいろと気づかされるとか、ちょうど話を聞き終えてびっくりしたところですよ。

(三本松) 博物館と美術館の一番の違いとして、博物館はいろいろな時代や国のものがある。内藤さんは弥生の遺物を用いたり三内丸山の縄文遺跡を題材とした青森県立美術館の展示に参加しているけれども、これだけ選択肢が豊富な中で、逆にどうやって選んだのかな、というところに興味がありました。結果として縄文を選んだことで、内藤展の向かいに考古展示室があり、内藤展会場のガラスに考古展示室内の展示物が写っていて、通路を挟んで写しあいの構造になっている、そこも素晴らしいなと思った一方で、違う時代や、海外の遺物とか、東洋館など他の建物での展示もありえたのかな、と想像したものですから。

(鬼 頭) 今、ほかの時代の、ということをおっしゃいましたけれども、今回縄文を選ばれたのは、全て作り手の意思で作られたものであるからだということです。奈良、平安と時代が下っていくと、作り手の意思以外、例えば注文主がこう作ってほしいとか、こういう技法で作るべきだとか、作り手以外のいろいろな力が働いてものを作っていくことも多くなりますが、内藤さんが選ばれたのはそうではない、生きるための自然への畏れや祈りなど、純然たる作り手の想いで作ったものを選ばれたのだと思います。そうすると骨は何だという話になるんですが、生きる、生を繋ぐもの、食べてそれがまた命をいただいて、それが繋がっていく。そういった意味で繋がりを象徴していくものとして選ばれたという話でしたね。

本展で博物館の3会場を廻っていただく間に、いろいろな人がいろいろな時代に作ったものが並んでいて、それぞれの時代に作られたものの中を通り抜けることで、それぞれの時代の創造の精神を感じ、その時代その時代で、そこに生きてこういうものを作った人がいたという、生きた証拠というか、いろいろな時代の生を感じながら見ていただくのも、こちらの意図のひとつではありました。

東博で近現代、特に現代の作家の作品を取り扱うことがあまりありませんが、三本松さんは近現代がご専門ですけど、東博のような、美術館のいわゆるホワイトキューブ的な空間ではないところでやるところの良さあるいは特徴など何か期待することがあればお聞かせください。

(三本松) 何で縄文？と訊ねた件で思い出したのは、内藤さんが既成のプリント布とかリボンを使われることです。自分ではお花の絵を描いたりはしない、再現的な表現はしないのだけど、布地屋さんに行って素敵な布を探すのは楽しいのだと。世界には、素敵なものが溢れていて、それ

を自分は探索する気持ちで問屋街に行くのだ、と2009年の個展のころに内藤さんが話していたのです。もしかして室町時代の布とか、根付とか、昔の人がつくった東博所蔵の美しいものを素材とするのもあり得たのかな?と思いました。作為を持ってつくる・つくらない、作家としてのエゴを出す・出さないのレベルで考えた時に内藤さんの縄文という選択もわかるのだけど、視点を変えると、博物館というこの場所——上野公園という場所の歴史性だとか、博物館の持っているものの時代性とか、いろいろな時代の専門家がどう見せたいと思って各展示室を作っているか、あるいはどういう改修をして、この百数十年の建物を更新しているか、といったことを全部内藤さんが受け入れて、作品の中に組み込む。その時に、こんなに考えた私は凄いでしょう、ではなくて、全然自分を出さず、生への呼びかけとして「生まれておいで 生きておいで」と発する。それは、この2か月だけ世界に「生まれていらっしやい」と作品を送り出す言葉とも思います。展覧会が終わったら9月には「お帰りなさい」と出迎えられ、作品たちはもうこの世にいない。「生の外」に帰ってしまうのだけれど、メゾンエルメスフォーラムで同じ素材の作品が生まれてきて、また帰っていく。私たちは、2か月が終わったらこの展示にはもう出会えないけど、10年後に別の国で別の内藤作品を見た時に、あの時に見た、と思うかもしれない。東博自体がオルタナティブスペースのような、タイムカプセルのような可能性をもつ場所で、それを活用していくには内藤さんに限らず、子どもとか作家の卵とか作家とか、今回の展示を見た方の経験が将来に繋がっていくのかなと思います。また次の作家が出てくることを期待しています。

(鬼 頭) 考古展示は考古展示室で歴史的な文脈で展示していますが、本館の2階にある「日本美術の流れ」という展示の中でも最初に考古展示の部分があります。それは、原則美術展示として見せています。今回の場合はそれらのどちらでもなく、まったく別の視点で展示をしている。品川さんはそのことについて何か考えをお持ちか、ということと、収蔵品を違った見方で提示していることについてどう思われているかということをお聞かせください。

(品 川) 東博のコレクションが12万件、考古遺物だけでも3万件ある、って話をしたんですが、この3万件を全部皆さんにお見せすることはできないんですね。今活躍する場として本館や平成館の考古展示室があるんですけども、決まった見方で展示しているのでどうしてもこぼれ落ちてしまうのがある。今回そういったものを内藤さんが取り上げてくれた。私は発掘の話をしていただいたかと思うんですけど、発掘するときは出土する考古遺物は選べないんですね。どういうものが出るかは何となく見当がつくんですが、やっぱり出てきたものを見るとすごく嬉しいと思うし、日の光の中、午前中に発掘するときもあればお昼に発掘するときもあるし、夕方に発掘することもあるって、今回の展示空間はそういった場をもう1回見ているかのような、不思議な気持ちになりました。

博物館は展示のルールがあって、全部が全部活躍する場がないんですけども、今回こういった形で内藤礼という作家さんを通して今まで日が当たらなかった、またお見せする機会がなかった考古遺物を皆さんにご覧いただく機会になり、自分自身がもう1回考古学をやり

始めた時の気持ちに戻してもらったっていうところがありましたので、すごく良い機会をいただいたし、皆さんもきっと今までと違うと東博を見つけるきっかけになったのではと思っています。

(鬼 頭) ちょっとお時間が過ぎて申し訳ありませんでした。皆様、本日はありがとうございました。

東京国立博物館 月例講演会 2024/08/17

内藤礼と東博考古コレクションの出会い

品川欣也 (東京国立博物館)

1.東博考古コレクションとは
2.内藤礼による考古遺物の選定
3.出品された考古遺物の紹介
4.縄文造形の特徴

作品No.1 (J-34839)
土版
縄文時代(後～晩期)・前2000～前400年
東京都品川区 大井権現台貝塚出土
*明治29年(1896)頃、野中完一によって採集。

作品No.30 (J-38391)
【重要文化財】足形付土製品
縄文時代(後期)・前2000～前1000年
新潟県村上市 上山遺跡出土
*昭和35年(1960)、上原甲子郎によって発掘。

作品No.36 (J-36876)
【重要美術品】猪形土製品
縄文時代(後～晩期)・前2000～前400年
青森県つがる市水道亀ヶ岡出土
*有坂紹蔵旧蔵。

1

東京国立博物館 月例講演会 2024/08/17

作品No.51 (J-23228)
猪形土製品
縄文時代(晩期)・前1000～前400年
埼玉県さいたま市 真福寺貝塚出土
*昭和初期、上羽貞幸によって採集。

作品No.40 (J-39285-2)
鹿骨(中:寛骨・右:脛骨)
作品No.44 (J-39285-1)
猪骨(左:肩甲骨)
縄文時代(晩期)・前1000～前400年
千葉県野田市 山崎貝塚出土
中澤遼男氏寄贈
*昭和2年(1927)、中澤遼男によって採集。

作品No.48 (J-2047)
土製丸玉
縄文時代(後～晩期)・前2000～前400年
茨城県阿見町阿見出土
*沼田頼輔旧蔵品。明治35年(1902)購入。

参考文献
井上洋一・松浦有一「東京国立博物館図録 縄文遺物篇(土偶・土製品)」東京国立博物館、1996年
今村啓爾「縄文土器と芸術的創造」『月刊考古学ジャーナル』No.597、ニューサイエンス社、2010年、31-34頁
佐原真「大昔の美と私たち」『美術鑑へ行こう 大昔の美に思う』株式会社新潮社、1999年、166-170頁
品川欣也「東京国立博物館の考古コレクション」『国宝 東京国立博物館のすべて』毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション、2022年、143・144頁

2

東京国立博物館 月例講演会 2024/08/17

内藤礼が送り出すもの

三本松倫代(神奈川県立近代美術館 主任学芸員)

1. 内藤礼のこれまで

1961 広島に生まれる
1985 武蔵野美術大学卒業(造形学部 視覚伝達デザイン学科)
卒業制作を元に佐賀町エキジビット・スペースでグループ展
1986 個展「Apocalypse Palace」1992より海外で展示、1995より美術館での個展
1997 「地上にひとつの場所を」ヴェネチア・ビエンナーレ日本館
「たくさんものが呼び出されている」カルメル会修道院(フランクフルト)
2001 「きんざ」《このことを》常設設置(香川県 直島)
2009 「すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している」
神奈川県立近代美術館 鎌倉
2010 「豊島美術館」《母型》開館(香川県 豊島)設計:西沢立衛
2014 「母の感情」東京都庭園美術館
2018 「明るい地上には あなたの姿が見える」水戸芸術館現代美術ギャラリー
2020 「うつしあう創造」金沢21世紀美術館
2022 「すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している 2022」
神奈川県立近代美術館 葉山
2023 「breath」ミュンヘン州立版画美術館(ミュンヘン、ドイツ)
(ほか、タカ・イシイギャラリー(東京)、LOOCK(ベルリン)で開催多数)

2. めぐる言葉、めぐる素材:「依り代(よりしろ)」としての

2-1. 題名(タイトル)
「生の外」からのまなざし=「慈しみ(慈悲・慈愛):与えられた生に対する「返礼」
思慮 / 精霊 / 母型 / 返礼 / color beginning /
地上にひとつの場所を / 地上はどこなところだったか / 世界に秘密を送り返す
無題あるいは【素材=題材=見立て】*風船、杖、座、ベンチ、まぶた、とんの毛 etc.

2-2. 素材(マテリアル)
地上に遍在するものたちから、「つくらない」美しさを取り出すこと
a. フラネル、毛糸:柔らかさ、優しさ、空気感
b. 種子、花、木・枝、石、水:自然、生をあらわす →プリント布(植物柄)、染色布
c. ビーズ、ガラス(瓶)、電気照明:光をとらえる・あらわす

3

東京国立博物館 月例講演会 2024/08/17

d. バルーン(ゴム風船)、リボン、糸、鈴:空気・風をとらえる
e. 色彩(赤鉛筆・絵具、染色布、リボン・プリント布・毛糸):生と祝福
f. 鏡、ガラス(窓):反射(による遠慮・不可視性)をあらわす
g. テグス、ガラス(瓶)、木(ベンチ、台座、壁)、存在を支える存在
h. 空間、建築、その文脈と特性(site specificity):歴史性と現前性

3. 「生まれておいで 生きておいで」という場所

3-1. 題材(モチーフ)
死者(=生の外)への「捧げもの」「飾りつけ」、「見立て」「ままごと」の無垢性
→ 死者/未生者からの「生へのうながし」への転換
杖、枕、瓶(水)、「通路」「まぶた」→ 土版、母体、足形、骨、風景(画)

3-2. 構成(コンポジション)
「生の外」と「生の内」の往還、巡礼としての願路 → 未来の追憶としての体験
呼びかけとしての「おいで」:出迎え、送り出しとしての言葉と場所性

ある日よと、臨終を指す「息を引き取る」という言葉の使い方を思い出し、一つの転換が起こる。長い間、死者のために用意をしてきた杖は、むしろ彼らの息、死者の生だったのでないか。慈悲の働きかけは、死者から生者へと向けられることとなった。声が響いてこない。「生きなさい。生きたのち、自らの生のもとに安らげるのですから」内藤礼 2023【ミュンヘン版図録英訳掲載、本展図録和文再録】

「作品のなかにある何かが一日一日生きるようにと私をうながす」内藤礼 2024【本展図録所収】

参考文献
内藤礼/聞き手:中村徹太郎「内藤礼〈母型〉」(神戸芸術工科大学大学リサーチブック)左右社、2009年 *アーティストトーク記録
内藤礼「内藤礼 1985-2015 祝福」millegraph、2015年 *作品集
内藤礼「空を見てよかった」新潮社、2020年 *自著テキスト集
「コレクション展「内藤礼 すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している 2022」資料」神奈川県立近代美術館、2022年 *PDFでWeb掲載
「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」HeHe、2024年 *本展図録、刊行予定

4

「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」展 東京国立博物館研究員とのオープンダイアログ

2024年8月19日(月) 10時30分～14時30分 本展会場および黒田記念館セミナー室

主 催：エルメス財団

共 催：東京国立博物館

講 師：本展担当研究員 東京国立博物館学芸企画部 鬼頭智美、品川欣也、
エルメス財団キュレーター 説田礼子

対 象：美術・歴史系専攻の大学生・大学院生

参加者数：35名(エルメス財団のWEBサイト上および館内配布チラシなどで募集。事前申し込み制)

運営補助：竹之内勝典(東京国立博物館総務部総務課長)、金悠紀(同課アソシエイトフェロー)、
金里織(同)

概 要

エルメス財団の主催、運営により、原則関連分野の大学生・大学院生を対象にワークショップを行った。具体的には、当館の内藤展会場および考古展示室を講師が概要説明しながら見学した後、別室で展覧会、作品について思ったことを付箋に書き、その内容に基づきグループに分かれてディスカッション、それを全体で共有した。内藤作品についてはあまり細かい説明はせず、自由に空間と参加者が向き合えるようにした。説明しなかったにもかかわらず、作家の意図をズバリ言い当てたコメントもあれば、まったく予想しなかった反応もあり、グループごとに大変活発な論議が交わされた。全体として、大変リテラシーの高い参加者であった。

スケジュール

10:30 集合、挨拶、プログラム概要説明

10:35-11:20 A チーム 内藤展 鑑賞ツアー 内藤展担当研究員による概要説明(展示室前)

B チーム 考古展示室見学 考古学研究員による展示室ツアー

11:20-12:05 B チーム 内藤展 鑑賞ツアー 内藤展担当研究員による概要説明(展示室前)

A チーム 考古展示室見学 考古学研究員による展示室ツアー

移動、黒田記念館へ

12:15-13:10 ランチ

5チーム(1チーム6名程度)に分かれ、ランチはグループごとのテーブルで食べる。

参加者は、感想や質問などを付箋に書き、それをそれぞれのチームのホワイトボードに貼ってもらい、共有する。

13:15-13:40 ダイアローグ

展覧会を、「モノ」からと「場所」からという二つの視点から問いかける。

イントロダクション

- ・「モノ」からの視点 今回展示された考古遺物についての解説、所感：品川
- ・「場所」からの視点 第1会場から第3会場までの建物/場所の特性、選択のプロセス、制作スケジュール、内藤作品と当館との親和性についてなど：鬼頭
- ・現在準備中のメゾンエルメス フォーラムの空間や「モノ」との関係性について：説田

13:40-14:30 グループディスカッション

ホワイトボードを使ってグループワーク

テーマ（2択）

- ① 内藤作品における「モノ」とは？また「モノ」との出会いとは？
 - ② 内藤作品における「場所」とは何だろうか？
- ⇒ チームごとに発表、感想を共有

講 評（品川、鬼頭、説田）

謝辞

本展実施にあたり、美術家・内藤礼氏、写真家・畠山直哉氏、アーティストリエゾン・岡本夏佳氏、連携企画キュレーター・説田礼子氏はじめ、関係各位に心よりお礼申し上げます。

「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」実施記録集

2025年3月31日発行

執 筆：鬼頭智美 (pp. 34-35, 38-39, 42)、品川欣也 (pp. 32-33, 69)、荻堂正博 (pp. 26-27)

編 集：鬼頭智美、品川欣也、荻堂正博

英文監修：サミュエル・タン

デザイン・制作・印刷：大協印刷(株)

発 行：東京国立博物館

無断複写・複製・転載を禁ず

©Tokyo National Museum

*Reprinting and reproduction of all or any part of this publication is prohibited without advanced permission from the Tokyo National Museum.